

2023 年 2 月 13 日

男子体操競技情報 30 号【訂正版】

(公財)日本体操協会
男子体操強化本部
審判委員会体操競技男子審判本部

【目次】

1	はじめに	1
2	第 51 回世界体操競技選手権リバプール大会報告	2
3	2022 年度国内競技大会総括および指標	14
4	2022 年版採点規則修正、追加情報	17
5	難度認定及び演技実施の確認事項と FIG 通達	20
6	2022 年 D スコアランキング (訂正)	40
7	タイ・ブレイクについて	43
8	2023 年度国内内規	45
9	マナー・モラルについて	46
10	おわりに	47

1. はじめに

男子体操強化本部長 水鳥 寿思

東京 2020 五輪が延期された影響により、未だ前回大会の余韻が残るなか、早くもパリ 2024 五輪まで残り 1 年半となりました。3 年サイクルというこれまで経験したことのない時間軸のなか、いち早く新しいルールに対応すべく選手、コーチ、審判のみなさまが日々努力を重ねていらっしゃることに感謝申し上げます。

昨年 11 月にイギリス・リバプールで開催された世界選手権では、団体総合予選をトップで通過しながらも、決勝では惜しくも金メダルを逃す結果となりました。しかし、個人総合では金と銅のメダルを獲得し、2014 年以来のダブル表彰台を達成するなどの成果もありました。現在の国内には、今回の代表選手以外にも有望なオールラウンダーの選手は多く、今年ベルギー・アントウェルペンで開催される世界選手権をはじめ、来年に迫ったパリ 2024 五輪でも十分に金メダルを獲得できる実力を有していると考えております。また、今年は、新型コロナウイルスの影響で開催が延期になっていた FISU ユニバーシティゲームス（中国・成都）やアジア競技大会（中国・杭州）も開催され、これまでにないビッグイベントが続く年となります。まずはこれらの大会において日本の強さを示していきながら、来年のパリ 2024 五輪につなげていく必要があると考えております。

本情報には、昨年新しい規則で初めて行われた世界選手権の報告をはじめ、FIG から通達された新しい情報も記載しております。コーチや審判の方々だけでなく、選手の皆さんにおかれましても、本伝達事項に含まれている情報について十分にご理解をいただいた上で、さらなる競技力向上を目指していただきたく存じます。そして、体操ニッポンがさらに飛躍するよう、また、日本国民に勇気と感動を与え、体操競技がさらに発展すること祈念しております。

2. 第 51 回世界体操競技選手権リバプール大会報告

体操競技男子審判本部

本部長 高橋 孝徳

副本部長 笠松 昭宏

1. 派遣期間：2022 年 10 月 25 日(火)～11 月 8 日(火)
2. 開催地：イギリス リバプール
3. 会場：M&S Bank Arena
Kings Dock, Port of Liverpool, Monarchs Quay, Liverpool L3 4FP
4. 宿泊先：Holiday Inn Liverpool – City Centre
Lime Street, Liverpool, L1 1NQ
5. 審判員：高橋 孝徳（体操競技男子審判本部本部長）
笠松 昭宏（体操競技男子審判本部副本部長）
6. 日程：大会スケジュール

10 月	25 日	(火)	【出発】羽田 08:30⇒パリ 16:45 パリ 21:15⇒マンチェスター21:40
	26 日	(水)	会場視察、オープニングセレモニー打ち合わせ
	27 日	(木)	男子ポディウムトレーニング（1 回目） 女子ポディウムトレーニング（Sub1-2） 審判会議（D 審判のみ）
	28 日	(金)	女子ポディウムトレーニング（Sub3-10）
	29 日	(土)	男子ポディウムトレーニング（2 回目） 開会式 女子予選（Sub1-2）
	30 日	(日)	女子予選（Sub3-10） 審判会議（予選、個人総合決勝ドロー）
	31 日	(月)	審判会議 男子予選（Sub1-6）
11 月	1 日	(火)	女子団体決勝
	2 日	(水)	審判会議（団体決勝ドロー） 男子団体決勝
	3 日	(木)	女子個人決勝
	4 日	(金)	男子個人決勝
	5 日	(土)	審判会議（種目別決勝前半種目ドロー） 種目別決勝 男子 FX、PH、SR 女子 VT、UB
	6 日	(日)	審判会議（種目別決勝後半種目ドロー） 種目別決勝 男子 VT、PB、HB 女子 BB、FX フェアウェルバンケット
	7 日	(月)	【現地発】マンチェスター11:00⇒パリ 13:30 パリ 18:55⇒
	8 日	(火)	【帰国】羽田 14:55

7. 参加状況：男子 74 カ国 参加人数：男子 206 名

1) チーム数 24 ヶ国

2) 個人出場 50 カ国

6 種目出場：86 名

ゆ か：132 名

あん馬：138 名

つり輪：128 名

跳 馬：27 名（2 本実施）

平行棒：139 名

鉄 棒：138 名

8. 審判会議

1) TC メンバー

TC メンバーは以下の通りである。

担当	氏名	NOC
FIG/MAG 技術委員長	MICKEVICS Arturs	LAT
FX	THOMSON Jeffrey	CAN
PH	ANDREEV Dmitrii	RUS
SR	TOMBS Andrew	GBR
VT	HAN Yoon Soo	KOR
PB	MARCOS FELIPE Julio	ESP
HB	ZUNICH Butch	USA

- ・ 2021 年 11 月に開催された FIG 総会により選出された 2024 年までの TC メンバー
- ・ あん馬担当の ANDREEV Dmitrii 氏は欠席となり、代理で NANKOE Raymond (NED) があん馬の SV を務めた。

2) 審判会議内容

最初に President の MICKEVICS Arturs 氏より挨拶があり、一般条項とあん馬についてのプレゼンテーションが行われた。その後つり輪、跳馬へとローテーションでプレゼンテーションが行われた。各種目とも従来からの変更点、および数か所の減点項目の確認や注意点が挙げられ、E スコアの採点練習が実施された。ドローを含めて 4 時間の時間を設定されていたが、時間が足りず最後に行われたゆかのプレゼンテーションは駆け足での講習となった。

以下は各種目で取り上げられた項目である。

□ ゆ か

1) 宙返り技のひねりについて

- ・ ひねり不足の減点、角度不足を明確に判定する。

2) 着地の準備について

- ・ 準備局面の見られる着地かどうかを判定し、余裕のない捌きは実施の状況により 0.1 or 0.3 の減点をする。
- ・ 止めることなく、次の動作に移行する捌きは減点の対象となる。

3) エンドーロールについて

- ・ 前転脚前拳支持経過閉脚倒立は脚開きで 0.3 の減点となる。

4) 着地での足開き

- ・ 着地での足開きは 0.1 or 0.3 の減点となる。

5) 十字倒立について

肩が前に出た倒立姿勢は 0.1 の減点となる。

□ あん馬

1) 交差倒立系の技

- ・ 振動を使うことなく力で垂直に脚が上がる捌きは不認定となる。
- ・ 正交差ひねり倒立で前足が把手間を通るような捌きは 0.5 の減点で不認定となる。

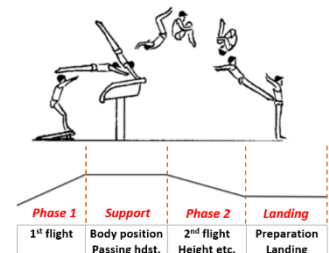
- 2) ミクラック系の技について
支持より先に足が落ちて体重がかかるような捌きは1.0の減点で不認定となる。
- 3) 縦向き移動での角度減点
 - ・ 角度の減点は毎回（一移動毎に）減点となる。
 - ・ 移動開始から技の成立時まで、手一つ分は0.1、より大きく左右の手がずれている場合は0.3の減点となる。
- 4) 腰まがりについて
Hip Breakesと表現し、フロップやショーンなどで手の持ち替え時の腰のまがり、入れ部分、片腕支持中の腰まがりそれぞれ減点があると説明。
- 5) 倒立を経過する終末技
倒立ひねりで脚が閉じてから再び開く捌きは減点となる。ただし、脚を開いたままひねる捌きに減点はない。

□ つり輪

- 1) 中水平支持の実施について
 - ・ 輪の中での水平姿勢が求められる。
 - ・ 肩の位置が高いものは水平支持のC難度として認定する。
 - ・ 角度、高さ、身体の姿勢それぞれに減点がある。
 - ・ 両腕が体に近いものは減点の対象となる。
- 2) 振動からの力静止技について
持ち込む際の高さ、静止時の高さそれぞれに減点がある。

□ 跳 馬

- 1) 今大会からE審判の減点の入力方法が変更された
 - ・ **phase1**（第一局面）、**support**（着手）、**phase2**（第二局面）、**phase3**（着地準備および着地）と4部分に分けてそれぞれの減点を入力する方式とする。



□ 平行棒

- 1) 静止技の静止時間
 - ・ 脚前挙支持や力倒立などの静止技は 2 秒静止しなければ 0.3 の減点となる。
- 2) 手ずらしについて
 - ・ 手のずらしは毎回減点となる。
 - ・ 前振り上がりにおける手を滑らすような捌きも減点となる。
- 3) 車輪について
 - ・ 後方車輪倒立において、倒立に収めに入ってから遅い膝の伸ばしは減点となる。

□ 鉄 棒

- 1) 演技開始時のスイングについて
 - ・ 予備スイングは 3 回までとなる。
- 2) 倒立角度について
- 3) 技が意図する方向に続かなかった場合
 - ・ 不認定となり、減点は 0.5 ではなく 0.3 となる。
- 4) 手放し技の肘まがり
 - ・ 0.1 と 0.3 の減点となる。
- 5) 手ずらしについて
 - ・ 毎回 0.1 の減点となる。

- 6) エンドー、シュタルダー、ワイラーの倒立位から外れた早い持ち込みについて
 - ・0.3 の減点となる。
 - ・アドラーへの持ち込みは倒立位からでなくてもよい。
- 7) エンドー、シュタルダーについて

鉄棒の真下を通過する際、明確に足が両腕の中に入らなければ、0.1、0.3 の減点
- 8) 伸身トカチェフについて

鉄棒の真上を通過する際、45° 以上の腰まがりがあった場合は屈身トカチェフの C 難度とする。

9. 新技申請

つり輪

- ① 十字倒立からゆっくりと下ろし逆懸垂経過、伸腕伸身逆上がり脚上挙十字懸垂（2 秒）

II-E 難度
発表者：Jingyuan ZOU (CHN)
- ② ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり十字倒立（2 秒）

II-F 難度
発表者：Nikita SIMONOV (AZE)

10. 審判団

◆ 参加審判

E 審判：48 カ国 65 名 2 名参加国 17 カ国

カテゴリー1（1 名）、カテゴリー2（57 名）、カテゴリー3（7 名）

D 審判：12 カ国 12 名

◆ 抽選方法について

抽選は予選競技の審判編成から始められた。なお、ドローの対象となるのは国（地域）であり、選出された場合、複数の審判が参加している国は、どちらが入るのか申告することになる。D 審判は FIG の指名となり、すでに種目に配置されており、E 審判、アシスタントジャッジ、リザーブ審判の順番で抽選が進められた。予選競技の審判編成決定後、個人総合も予選競技同様の手順で抽選が行われた。今回のルールから R 審判が廃止となり、E 審判が 7 名まで抽選されるため、参加国も少なくなったこともあり、複数の審判が参加している国でも予選、個人総合のどちらかで必ず選出されていた。

団体決勝、種目別決勝の前半、後半の抽選は当日の Judge's Briefing で実施された。抽選対象は、決勝進出国を除く審判のみであった。日本は全種目において決勝進出したため抽選に入ることはなかった。

◆ 結果

- 予選 あん馬 E4 笠松 昭宏
- 個人総合決勝 跳馬 E4 高橋 孝徳

◆ 審判席配置について

試合会場の審判配置は、アリーナ端、観客席前に一列に設置されたレイアウトであった。ゆか跳馬の線審はモニター画面で確認する方式であった。

FIG/MTC メンバーは各種目 1 列に並んだ 1 番端の位置に着席し採点業務にあたっていた。D スコアに差異が生じた場合は D 審判の近くに歩いていき確認をしていた。

11. 結 果；

□ 団体総合予選

	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計
1	日本	43.532	42.465	42.500	43.666	45.232	43.300	260.695
2	GBR	42.599	40.999	42.065	43.933	44.198	38.999	252.793
3	USA	40.765	41.966	41.933	43.366	43.432	40.833	252.295
4	CHN	40.000	40.599	41.332	41.466	43.300	43.232	249.929
5	ITA	41.932	40.365	39.132	42.733	42.333	41.166	247.661
6	ESP	40.833	39.166	39.466	42.166	43.798	40.165	245.594
7	BRA	41.732	38.732	39.766	42.833	39.666	42.665	245.394
8	KOR	42.132	38.666	38.899	43.833	40.798	39.765	244.093

◆団体予選上位 4 カ国の【D スコア】

	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計
1	日本	18.0	18.2	18.2	16.4	19.1	19.0	108.9
2	CHN	17.9	18.2	18.5	16.8	19.3	17.9	108.6
3	USA	18.3	17.7	17.8	16.8	17.9	17.0	105.5
4	GBR	18.7	17.2	16.9	16.8	18.8	16.4	104.8
	日中比較	0.1	0	-0.3	-0.4	-0.2	1.1	0.3

◆団体予選上位 4 カ国の【E スコア】

	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計
1	日本	25.432	24.265	24.300	27.266	26.132	24.300	151.695
2	GBR	23.899	23.799	25.165	27.233	25.398	22.599	148.094
3	USA	22.665	24.266	24.133	26.666	25.532	23.833	147.095
4	CHN	22.200	22.399	22.832	25.066	24.000	25.332	141.829
	日中比較	3.232	1.866	1.468	2.200	2.132	-1.032	9.866

□ 団体総合決勝

	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計
1	CHN	42.332	41.032	43.632	43.332	44.998	42.532	257.858
2	日本	43.366	38.466	42.199	43.332	43.999	42.033	253.395
3	GBR	42.799	35.232	42.299	42.833	43.266	40.800	247.229
4	ITA	41.766	38.366	39.499	42.933	42.065	41.366	245.995
5	USA	40.265	38.265	42.265	42.833	42.865	39.199	245.692
6	ESP	41.765	38.299	40.900	41.299	42.265	39.499	244.027
7	BRA	41.932	33.900	39.932	42.799	42.233	40.233	241.362
8	KOR	40.299	31.566	38.766	42.232	40.932	39.033	232.828

◆団体決勝上位 4 カ国の【D スコア】

	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計
1	CHN	16.8	17.5	19.0	16.8	19.4	18.1	107.6
2	日本	18.0	17.5	18.3	16.4	19.1	18.1	107.4
3	GBR	18.3	16.3	16.9	17.2	18.8	16.1	105.4
4	ITA	16.5	15.2	14.5	16.0	16.8	17.1	96.1
	日中比較	1.2	0	-0.7	-0.4	-0.3	0	-0.2

◆団体決勝上位 4 カ国の【E スコア】

Rk.	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計
1	ITA	25.266	23.166	24.999	27.233	26.265	24.266	151.195
2	CHN	25.532	23.532	24.632	26.832	25.598	24.432	150.558
3	日本	25.366	20.966	23.899	27.232	24.899	23.933	146.295
4	GBR	24.599	18.932	25.399	25.933	24.466	24.700	144.029
	日中比較	-0.166	-2.566	-0.733	0.400	-0.699	-0.499	-4.263

□ 個人総合予選

Rk.	選手名	国名	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
1	谷川 航	日本	14.166	13.733	14.000	14.400	14.866	13.566	84.731
2	橋本 大輝	日本	14.466	11.666	14.000	14.700	14.733	15.100	84.665
3	YULO Carlos Edriel	PHI	15.266	11.766	14.066	14.733	15.300	13.533	84.664
4	FRASER Joe	GBR	13.900	12.533	13.933	14.266	15.066	14.266	83.964
5	ZHANG Boheng	CHN	14.500	14.000	12.033	13.600	14.900	14.733	83.766
6	HONG Asher	USA	13.866	13.300	13.900	14.433	14.600	13.200	83.299
7	PLATA Joel	ESP	13.500	12.900	13.300	14.600	14.666	13.833	82.799
8	MALONE Brody	USA	12.766	13.433	13.700	14.333	13.966	14.433	82.631

◆予選個人総合上位 8 名【D スコア】

Rk.	選手名	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計	AA
1	ZHANG Boheng	CHN	6.1	6.0	5.7	5.6	6.4	6.2	36.0	5
2	橋本 大輝	日本	6.0	5.6	5.8	5.6	6.1	6.7	35.8	2
3	谷川 航	日本	5.6	5.8	6.0	5.6	6.3	5.7	35.0	1
4	YULO Carlos Edriel	PHI	6.4	5.1	6.0	6.0	6.3	5.0	34.8	3
4	FRASER Joe	GBR	5.7	5.7	5.6	5.2	6.5	6.1	34.8	4
6	MALONE Brody	USA	5.9	5.7	5.9	5.2	5.7	6.3	34.7	8
7	HONG Asher	USA	6.0	5.6	5.9	6.0	6.0	5.1	34.6	6
8	PLATA Joel	ESP	6.0	5.1	5.0	5.6	5.8	6.3	33.8	7

◆予選個人総合上位 8 名【E スコア】

Rk.	選手名	国名	ゆ か	あん馬	つり輪	跳 馬	平行棒	鉄 棒	合 計	AA
1	YULO Carlos Edriel	PHI	8.866	6.666	8.066	8.833	9.000	8.533	49.964	3
2	谷川 航	日本	8.566	7.933	8.000	8.800	8.566	7.866	49.731	1
3	PLATA Joel	ESP	7.800	7.800	8.300	9.000	8.866	7.533	49.299	7
4	FRASER Joe	GBR	8.300	6.833	8.333	9.066	8.566	8.166	49.264	4
5	HONG Asher	USA	7.966	7.700	8.000	8.533	8.600	8.100	48.899	6
6	橋本 大輝	日本	8.466	6.066	8.200	9.100	8.633	8.400	48.865	2
7	MALONE Brody	USA	6.966	7.733	7.800	9.133	8.266	8.133	48.031	8
8	ZHANG Boheng	CHN	8.400	8.000	6.333	8.000	8.500	8.533	47.766	5

□ 個人総合決勝

Rk.	選手名	国名	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
1	橋本 大輝	日本	14.666	14.333	13.866	14.900	15.000	14.433	87.198
2	ZHANG Boheng	CHN	14.033	14.233	14.100	14.900	15.066	14.433	86.765
3	谷川 航	日本	14.266	13.766	13.833	15.000	14.766	13.600	85.231
4	MALONE Brody	USA	14.133	13.766	13.666	14.500	14.366	14.500	84.931
5	JARMAN Jake	GBR	14.433	13.333	13.000	14.800	14.166	13.133	82.865
6	HONG Asher	USA	14.266	13.700	13.833	14.166	14.900	11.500	82.365
7	KOVTUN Illia	UKR	14.000	13.933	12.666	14.300	14.600	12.866	82.365
8	YULO Carlos Edriel	PHI	15.166	11.900	13.800	14.166	15.166	11.900	82.098

◆個人総合決勝上位 8 名【D スコア】

Rk.	選手名	国名	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計	AA
1	ZHANG Boheng	CHN	5.8	5.7	6.2	5.6	6.4	6.2	35.9	2
2	谷川 航	日本	5.7	5.9	6.0	6.0	6.3	5.7	35.6	3
3	橋本 大輝	日本	6.0	6.0	5.8	5.6	6.1	6.0	35.5	1
4	YULO Carlos Edriel	PHI	6.4	5.0	6.0	6.0	6.3	5.0	34.7	8
5	MALONE Brody	USA	5.7	5.8	5.6	5.2	6.0	6.3	34.6	4
5	HONG Asher	USA	6.0	5.6	5.9	6.0	6.0	5.1	34.6	6
7	KOVTUN Illia	UKR	6.1	6.0	4.8	5.2	6.6	5.4	34.1	7
8	JARMAN Jake	GBR	6.7	5.1	4.7	5.6	5.9	4.8	32.8	5

◆個人総合決勝上位 8 名【E スコア】

Rk.	選手名	国名	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計	AA
1	橋本 大輝	日本	8.666	8.333	8.066	9.300	8.900	8.433	51.698	1
2	ZHANG Boheng	CHN	8.233	8.533	7.900	9.300	8.666	8.233	50.865	2
3	MALONE Brody	USA	8.433	7.966	8.066	9.300	8.366	8.200	50.331	4
4	JARMAN Jake	GBR	7.733	8.233	8.300	9.200	8.266	8.333	50.065	5
5	谷川 航	日本	8.566	7.866	7.833	9.000	8.466	7.900	49.631	3
6	HONG Asher	USA	8.366	8.100	7.933	8.266	8.900	6.400	47.965	6
7	KOVTUN Illia	UKR	8.000	7.933	7.866	9.100	8.000	7.466	48.365	7
8	YULO Carlos Edriel	PHI	8.766	6.900	7.800	8.166	8.866	6.900	47.398	8

□ 種目別決勝

◇ゆか

Rk.	選手名	国名	D スコア	E スコア	ND	得点	予選 D
1	REGINI-MORAN Giamni	GBR	6.2	8.333		14.533	6.2
2	橋本 大輝	日本	6.0	8.500		14.500	6.0
3	土井 陵輔	日本	6.2	8.166	0.1	14.266	6.2
4	OSBERGER Benjamin	FRA	5.6	8.633		14.233	5.6
5	BARTOLINI Nicola	ITA	5.9	8.333		14.233	5.9
6	RYU Sunghyun	KOR	5.9	8.300		14.200	5.9
7	YULO Carlos Edriel	PHI	6.2	7.100		13.300	6.4
8	KARIMI Milad	KAZ	6.0	6.100		12.100	6.3

◇あん馬

Rk.	選手名	国名	D スコア	E スコア	ND	得点	予選 D
1	Mc CLENAGHAN Rhys	IRL	6.4	8.900		15.300	6.3
2	ABU AL SOUD Ahmad	JOR	6.3	8.566		14.866	6.3
3	MERDINYAN Harutyun	ARM	6.1	8.633		14.733	6.1
4	KURBANOV Nariman	KAZ	6.3	8.233		14.533	6.3
5	NEDOROSCIK Stephen	USA	6.2	8.200		14.400	6.4
6	de MUNCK Loran	NED	6.4	7.133		13.533	6.4
7	土井 陵輔	日本	6.1	6.833		12.933	6.1
8	UDE Filip	CRO	5.7	6.800		12.500	5.8

◇つり輪

Rk.	選手名	国名	D スコア	E スコア	ND	得点	予選 D
1	ASIL Adem	TUR	6.3	8.633		14.933	6.3
2	ZOU Jingyuan	CHN	6.3	8.566		14.866	6.3
3	TULLOCH Courthey	GBR	6.1	8.633		14.733	6.1
4	AVETISYAN Artur	ARM	6.0	8.600		14.600	5.9
5	YOU Hao	CHN	6.7	7.900		14.600	6.5
6	DAVTYAN Vahagn	ARM	6.0	8.533		14.533	6.0
7	神本 雄也	日本	6.4	8.066		14.466	6.4
8	WHITTENBURG Donnell	USA	6.0	8.433		14.433	6.0

◇跳 馬

Rk.	選手名 国名	D スコア	E スコア	ND	得点	決定点	予選 D
1	DAVTYAN Artur	5.6	9.500	0.1	15.000	15.050	5.6
	ARM	5.6	9.500		15.100		5.6
2	YULO Carlos Edriel	6.0	9.100	0.1	15.000	14.950	6.0
	PHI	5.6	9.300		14.900		5.6
3	RADIVILOV Igor	5.6	9.200		14.800	14.733	5.6
	UKR	5.6	9.066		14.666		5.6
4	BURTANETE Gabriel	5.6	9.066		14.666	14.533	5.6
	ROU	5.6	8.800		14.400		5.6
5	SOUZA Caio	5.6	8.733		14.333	14.416	5.6
	BRA	5.6	8.900		14.500		5.6
6	LEE Junho	5.6	8.866		14.466	14.316	5.6
	KOR	5.2	8.966		14.166		5.2
7	谷川 航	5.6	8.666	0.1	14.166	13.999	5.6
	日 本	4.8	9.033		13.833		5.6
8	KIM Hansol	5.6	9.300	0.3	14.900	13.900	5.6
	KOR	5.2	8.000		12.900		5.2

◇平行棒

Rk.	選手名	国名	D スコア	E スコア	ND	得点	予選 D
1	ZOU Jingyuan	CHN	6.9	9.266		16.166	6.5
2	DAUSER Lihas	GER	6.6	8.900		15.500	6.6
3	YULO Carlos Edriel	PHI	6.3	9.066		15.366	6.3
4	ARICAN Ferhat	TUR	6.6	8.466		15.066	6.6
5	CALVO MORENO J Orland	COL	6.7	8.266		14.966	6.7
6	神本 雄也	日本	6.5	8.400		14.900	6.5
7	REGINI-MORAN Giamni	GBR	6.4	8.333		14.733	6.4
8	FRASER Joe	GBR	6.5	8.200		14.700	6.5

◇鉄 棒

Rk.	選手名	国名	D スコア	E スコア	ND	得点	予選 D
1	MALONE Brody	USA	6.3	8.500		14.800	6.3
2	橋本 大輝	日本	6.4	8.300		14.700	6.7
3	MARIANO Arthur	BRA	6.0	8.466		14.466	5.9
4	SUN Wei	CHN	6.4	8.033		14.433	6.4
5	ZHANG Boheng	CHN	6.2	8.200		14.400	6.2
6	GEORGIU Ilias	CYP	5.9	8.400		14.300	5.9
7	神本 雄也	日本	6.0	8.166		14.166	6.0
8	BULL Tyson	AUS	5.9	7.866		13.766	5.9

◆国別メダル獲得数

	1 位	2 位	3 位	計
CHN	2	2		4
日 本	1	3	2	6
GBR	1		2	3
ARM	1		1	2
IRL	1			1
TUR	1			1
USA	1			1
PHI		1	1	2
JOR		1		1
GER		1		1
UKR			1	1
BRA			1	1

◆種目別メダル獲得国

	1 位	2 位	3 位
団 体	CHN	日 本	GBR
個人総合	日 本	CHN	日 本
ゆ か	GBR	日 本	日 本
あん馬	IRL	JOR	ARM
つり輪	TUR	CHN	GBR
跳 馬	ARM	PHI	UKR
平行棒	CHN	GER	PHI
鉄 棒	USA	日 本	BRA

12. 所 感

本大会は 2024 年パリオリンピックに向け、現行ルールを適用した最初の世界選手権となった。また、団体決勝の成績から上位 3 チームがパリオリンピックの出場権を獲得できる重要な大会でもあった。今回の特徴として今までと異なる点として以下が挙げられる。

- ・ COVID-19 の影響により 1 年短いサイクルで新ルールの適用となった
- ・ リファレンス審判制度を廃止し E 審判が 7 審制となった
- ・ 大陸間予選が実施され、参加数に制限が設けられた
- ・ ロシア、ウクライナ問題によりロシアとベラルーシが大陸間予選から出場禁止となった

今回の出場国の顔ぶれから、団体は日本と中国の一騎打ちになるであろうと予想された。ここにヨーロッパ選手権で優勝し地元開催国であるイギリス、他にイタリアやアメリカが銅メダル争いに絡んでくると思われた。個人総合は前年の東京オリンピック金メダリストの橋本大輝選手と世界選手権北九州大会の優勝者、ZHANG Boheng 選手 (CHN) が筆頭に上げられた。

団体で優勝するための得点は春先からの競技会成績から 262 点近い得点であると予測された。しかし、予選では 1 位通過の日本が 260.695、2 位のイギリスと 3 位の中国は 252 点台、決勝では優勝した中国が 257.858、2 位の日本は 253.395 といずれも複数の大きなミスが影響を及ぼし、想定より低い得点結果となった。とりわけ、あん馬では落下や大きな失敗となる演技が続出し、団体決勝では全ての国で落下を伴い、鬼門となる種目となっていたのも得点が伸ばせない要因であった。

今回、演技前に長い時間待たされるケースが多く見られたが、その一因としてテレビ放送局側からのコントロールがあった。これは今までにも見られたが、今後も同等のことがあると考えられる。常に自分のタイミングで演技をスタートできることはないし、どのタイミングでも演技に入れる準備をしていく必要があるであろう。

採点に関しては、機械的に角度、姿勢、時間不足、着地での動きを減点しており、技術や質の差が得点に反映されていないように感じるがあった。ヨーロッパ地区の審判とも技術の差や質の違いをもっと大事にすべきであろうとの意見で一致した。あわせて、得点が伸びないもう一つの理由として考えられるのは、E 審判員が 7 名の編成となり、上下 2 得点ずつスコアがカットされることになったことである。中間 3 つの平均値は今までよりも得点が均されてしまい、差がつきにくい可能性が懸念される。FIG による今後の分析が待たれるが、このような算出方法の中で、いかに評価を高く得点を得るかは、質の高い演技、他者より魅了した技捌き、安定した着地を見せられるかが、重要になってくるであろう。

個人総合では、橋本選手と谷川航選手が金メダル、銅メダルを獲得した。いくつかのミスや危うい部分も見られたが、最後まで通しきり見事にダブル表彰台となった。2 名の表彰台は 2014 年南寧大会での内村航平選手と田中佑典選手以来である。

種目別は 2013 年アントワープ大会以来の全種目決勝進出を果たした。選手たちはそれぞれ十分に力を発揮して銀メダル 2 個、銅メダル 1 個を獲得できた。しかし、日本選手たちの本来の力を考えると、表彰台のより高い位置に行けることも想像できた。その実現には高い D スコアでの実施、安定した演技、最後に止める着地に集約されると感じられる。選手たちの健闘を称えつつ、より高みを目指し研鑽してくれることを期待したい。

今回、大陸間予選により出場国が少なくなったことで審判員の数も減少した。例年 100 名を超える審判数が今回は 77 名となり、肥大化する世界選手権の抑制をこの側面から見ると成果が出たように思われる。一方で、出場しない国は世界選手権で得られる情報や、レベルの高い演技を直接見ることができないことなど、技術、情報収集の格差が生じる可能性があるのではないと思われる。技の判定、得点の出方、評価の仕方など、現場でこそ得られる情報がある。今回、COVID-19 の影響などもあり、ヨーロッパ選手権や全米選手権、中国選手権などに赴き、情報収集をすることができなかったが、ここは強化との連携を図り、対応していくことが必要であると感じられた。

最後に今回出場した日本選手のご家族やジュニア時代の指導者、関係者、体操ファンが多く応援に駆けつけてくれた。選手たちには大変なエネルギーとなり勇気を頂いた。また日本からの応援も力となり、選手の頑張りを支えてくれたと感じた。

会場は連日満員の観客であり、そこから出される声援は出場選手全員を鼓舞し、勇気を与えたことであろう。競技会が無事に開催され参加できたことを全ての関係者に感謝するとともに、世の中の情勢が落ち着き平穏な中で競技会が盛り上がるようになることを切に願いたい。

13. 種目別決勝メダリストの演技構成

◆ ゆ か

1. REGINI-MORAN Giamni (GBR) 14.533 D6.2 E8.333

後方かかえ込み 2 回宙返り 3 回ひねり(G)、後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり(E)、後方伸身宙返り 5/2 ひねり(D)～前方伸身宙返り(B)～前方伸身宙返り 3/2 ひねり(C)、後方伸身宙返り 2 回ひねり(C)、開脚座から伸腕屈身力十字倒立(C)、前方屈身 2 回宙返りひねり(E)、前方伸身宙返り 5/2 ひねり(E)、後方伸身宙返り 3 回ひねり(D)

2. 橋本 大輝 (日本) 14.500 D6.0 E8.500

後方かかえ込み 2 回宙返り 3 回ひねり(G)、後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり(E)、前方伸身宙返り 1 回ひねり(C)～前方伸身宙返り 5/2 ひねり(E)、後方伸身宙返り 2 回ひねり(C)、ロシアン 1080° 転向(C)、開脚座から伸腕屈身力十字倒立(C)、後方伸身宙返り 5/2 ひねり(D)～前方伸身宙返り(B)、後方伸身宙返り 3 回ひねり(D)

3. 土井 陵輔 (日本) 14.266 D6.2 E8.166 ND 0.1

後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり(E)、後方伸身宙返り 3/2 ひねり(C)～前方伸身宙返り 3 回ひねり(F)、後方伸身宙返り 5/2 ひねり(D)～前方伸身宙返り 5/2 ひねり(E)、マンナ(C)、後方伸身宙返り 7/2 ひねり(E)、前方伸身宙返り 1 回ひねり(C)～前方伸身宙返り 2 回ひねり(D)、後方伸身宙返り 3 回ひねり(D)

◆ あん馬

1. Mc CLENAGHAN Rhys (IRL) 15.300 D6.4 E8.900

逆交差倒立(C)、G コンバイン(G)、E フロップ(E)、あん部馬背ロシアン 1080° 転向(E)、ループ(B)、マジヤール(D)、シバド(D)、ウ・グォニアン(E)、ロシアン 1080° 転向(D)、DSA 倒立 450° ひねり 3/3 部分移動下り(E)

2. ABU AL SOUD Ahmad (JOR) 14.866 D6.3 E8.566

ミクラック(D)、バンメン(E)、縦向き前移動両把手を越えて(E)、シバド(D)、ニンレイズ 2(E)、トンフェイ(D)、ループ(B)、ショーン(E)、E フロップ(E)、下向き逆移動倒立 3/3 部分移動下り(D)

3. MERDINYAN Harutyun (ARM) 14.733 D6.1 E8.633

正交差横移動ひねり逆交差入れ(C)、ショーン(E)、D コンバイン(D)、E フロップ(E)、あん部馬背ロシアン 1080° 転向(E)、後ろ移動(B)、マジヤール(D)、シバド(D)、馬端馬背ロシアン 1080° 転向(D)、DSA 倒立 450° ひねり 3/3 部分移動下り(E)

◆ つり輪

1. ASIL Adem (TUR) 14.933 D6.3 E8.633

バランディン 3(E)、ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持(E)、後ろ振り上がり十字倒立(E)、ジョナサン(D)、後ろ振り上がり中水平支持(E)、アザリアン(D)、後ろ振り上がり水平支持(D)、後方車輪倒立(C)、前方車輪倒立(C)、後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり(E)

2. ZOU Jingyuan (CHN) 14.866 D6.3 E8.566

後ろ振り上がり十字倒立(E)、グ・キュウ・チャン(E)、後ろ振り上がり水平支持(D)、ジョナサン(D)、ヤマワキ(C)、後ろ振り上がり中水平支持(E)、ホンマ十字懸垂(D)、十字懸垂から伸腕伸身中水平支持(E)、後ろ振り上がり倒立(C)、後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり(E)

3. TULLOCH Courtney (GBR) 14.733 D6.1 E8.633

ヤン・ミンヨン(E)、ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持(E)、後方け上がり中水平支持(E)、ジョナサン(D)、後ろ振り上がり倒立(D)、後ろ振り上がり水平支持(D)、ナカヤマ(D)、ホンマ十字懸垂(D)、ほん転逆上がり倒立(C)、後方伸身 2 回宙返り 1 回ひねり(D)

◆ 跳 馬

1. DAVTYAN Artur (ARM) 15.050
 1 本目：ドラグレスク 15.000 D5.6 E9.500 ND 0.1
 2 本目：ヨー2 15.100 D5.6 E9.500
2. YULO Carlos Edriel (PHI) 14.950
 1 本目：リ・セグァン 2 15.000 D6.0 E9.100 ND 0.1
 2 本目：ロペス 14.900 D5.6 E9.300
3. RADIVILOV Igor (UKR) 14.733
 1 本目：ドラグレスク 14.800 D5.6 E9.200
 2 本目：ルー・ユーフ 14.666 D5.6 E9.066

◆ 平行棒

1. ZOU Jingyan (CHN) 16.166 D6.9 E9.266
 ソラキディス(G)、マクーツ(E)、リチャード(E)、棒下宙返りひねり倒立(E)、棒下宙返り倒立(D)、ササキ(E)、バブサー(E)、ティッペルト(D)、ヒーリー(D)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(E)
2. DAUSER Lukas (GER) 15.500 D6.6 E8.900
 棒下宙返りひねり倒立(E)、棒下宙返り倒立(D)、ソラキディス(G)、リチャード(E)、前振り上がりひねり倒立(E)、マクーツ(E)、ヒーリー(D)、ディアミドフ(C)、前振りひねり倒立(C)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(E)
3. YULO Carlos Edriel (PHI) 15.366 D6.3 E9.066
 棒下宙返り単棒倒立(E)～単棒倒立からヒーリー(E)、マクーツ(E)、ヒーリー(D)、後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持(D)、モイ(C)、バブサー(E)、ティッペルト(D)、ディアミドフ(C)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(E)

◆ 鉄 棒

1. MALONE Brody (USA) 14.800 D6.3 E8.500
 ツオリミン(C)、カッシーナ(G)、コールマン(E)、伸身トカチェフ(D)～トカチェフ(C)～屈身トカチェフ(C)、アドラー1 回ひねり片逆手倒立(D)、アドラーひねり倒立(D)、クースト(C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)
2. 橋本 大輝 (日 本) 14.700 D6.4 E8.300
 後ろ振り上がり倒立(A)、アドラーひねり倒立(D)～リュウキン(F)、カッシーナ(G)、コールマン(E)、伸身トカチェフ(D)、アドラー1 回ひねり逆手倒立(E)、シュタルダー(B)、クースト(C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)
3. MARIANO Arthur (BRA) 14.466 D6.0 E8.466
 エンドー(B)、アドラーひねり倒立(D)～伸身トカチェフ(D)～トカチェフ(C)～屈身トカチェフ(C)、クースト(C)、ウィンクラー(F)、アドラー1 回ひねり片逆手倒立(D)、ヤマワキ(C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)

3. 2022 年度国内競技会総括および指標

□ ゆ か

2022 年版では、演技時間が 2017 年版までよりも 5 秒間延長され、着地と静止技の静止を含めたリズムカルな実施が求められた。

D スコアにおいては、1 回宙返り技の連続における組合せ加点に制限が設けられた。実施者が増えた組合せ加点が与えられる連続技として、「後方伸身宙返り 5/2 ひねりまたは前方伸身宙返り 2 回ひねりから前方伸身宙返り」が挙げられる。今後、「前方伸身宙返り」が「前方かかえ込み 2 回宙返り」へと発展し、0.2 の組合せ加点を得る選手が増えてくることを期待したい。一方、2022 世界選手権大会では 2 回宙返りと組み合わせて加点を得ている実施が多数見られ、世界との差を感じた。

E スコアにおける主な減点として、静止技での 2 秒に満たない静止、アクロバットシリーズ前の 2 秒以上の停止、宙返り技での姿勢不良、高さ・ひねり不足・準備局面での体の開きのない捌き、着地での頭や腰の位置の低さなどが挙げられる。ゆかは着地回数が多いため、着地の捌き方によっては E スコアに大きく影響する。例えば、終末技に後方伸身宙返り 3 回ひねりを実施した場合、ひねり不足が伴う実施においては、ひねり不足の減点に着地の準備局面での体の開き不足に対する減点も追加で減点される。不安定な着地姿勢としての減点を防ぐには、毎回両足に体重が乗っていること、すなわちそのまま止まり続けることができることを表現しなければならない。

2022 世界選手権種目別決勝 8 名の D スコア平均は 6.00、E スコア平均は 7.93。全日本種目別決勝 8 名の D スコア平均は 6.06、E スコア平均は 8.25。比較すると D スコア・E スコアともに全日本種目別の方が高く、現時点で日本のゆかのレベルは世界最高峰にあると考えられる。次のシーズンに向けて更に D スコアアップをはかり、雄大で正確かつリズムカルで安定した実施を目指してもらいたい。その上で、各競技会において高いレベルにて切磋琢磨できることを期待している。

□ あん馬

この度、5 年ぶりにルールが改定され、あん馬においては特別な繰り返しの制限が増え、選手はより多くのタイプの技を演技中に取り入れなければならなくなった。そのため、いち早く新しい規則に対応すべく、多くの選手が昨年からの演技構成を変えてきた印象を持った。実施者が増えた技としてはアイヒホルンやショーン、ウルジカ 2、ケイハ 4 など、いずれも E 難度の技である。また、難度の変わった交差倒立技においても、難度の高いリーニンを実施する選手が増えるなど、積極的に D スコアアップを目指して冬場のトレーニングに励んできた様子が窺い知れた。

春先の全日本選手権では新しい演技構成に慣れていないことが影響しているためか、落下を伴う大過失が多く発生し、特にフロップやコンバイン技での落下が多く見られた。また、NHK 杯においても、ウ・グォニアンやショーン、ブスナリといった高難度技での落下が散見された。上位 36 名の平均 D スコアは全日本予選、決勝、NHK 杯いずれも 5.8 であった。

一方、E スコアに目を向けると、交差倒立技の腰まがりやフロップコンバインでの旋回の高さ不足、縦向き移動技の馬体への接触、倒立下りの停滞などが主な減点となった。E スコアの平均値は全日本予選、決勝ではともに 7.8 であり、NHK 杯においては 7.7 であった。昨年開催された世界選手権の個人総合におけるあん馬の E スコア平均は 7.4 であったが、内容を比較すると、交差技や交差倒立技、倒立下りでの認定基準を含め、とてもシビアな判定がなされていた印象を受けた。この先日本が世界のトップに返り咲くためには、雄大で安定した演技実施のみならず、技の正確性まで追求していくことが必要不可欠となってくると感じた。次のシーズンに向け、より一層の準備をしていただくことを期待している。

□ つり輪

ルールの改定により実施の正確さが求められる中、春先からの大会を通して細部まで意識した実施が多く見受けられた。種目の特性上なかなか得点を伸ばしにくい種目ではあるが、評価された選手の傾向は力技での姿勢や静止時間、振動技や振動倒立といった部分での正確性や美しさに加え、力強さ、そして終末技の着地までコントロールされた実施が高い評価となった。しかし十分に意識をしている場合でも「静止位置が僅かに高い」、「静止時間が短い」など普段のトレーニングからより意識した実施が重要である。ゆっくりと回転して行う技（アザリアンなど）は一貫してゆっくりとした回転かつ体を一直線にした姿勢で実施しなければならないため、速い回転や姿勢の乱れは減点の対象となることを改めて認識した実施を期待したい。また D スコアを上げるために難度のあがった十字倒立を実施してくる選手が多く見受けられたが、最終姿勢へ持ち込む際の姿勢不良や最終姿勢での肩の高さ等で大きく減点される選手が散見され、単純に難度を稼ぐためだけの実施とならないよう十分な準備が必要である。これ以外に主に見られた小・中欠点では、着地での動きの減点を始め、難度表にない技での 2 秒以上の停滞、倒立や力静止技の姿勢に持ち込む際の肘のまがり、ケーブルへのタッチや寄りかかり、体の反り、終末技の姿勢や着地の準備局面などであった。この種目に限らず着地での印象が得点に大きく左右することを再度認識し、日々の練習から準備局面を有し意識的に止められる終末技の実施を心掛けるよう期待したい。

力静止技の基礎力を向上させた選手達に敬意を表すると共に、この時期を可能な限り前向きに捉え、次シーズンの活躍を期待したい。今後も微動だにしない倒立や美しい日本の体操をこの種目でも多くの選手が表現してくれることを期待している。

□ 跳馬

新規則ではグループの再編成が行われたが頻度の高い跳越技の価値点変更はほぼなかった。種目別以外の大会は 1 跳越であるため、5.2 または 5.6 の跳越技が必須になってきた。特に個人総合で上位に入るためには 5.6 以上の跳越技が全体の D スコアを上げるためにも必要になってくる。今後世界選手権やオリンピックの団体を戦う上で 5.6 以上の選手が何人いるかが、跳馬の優劣を決めることになるだろう。一方で価値点の高い跳越技であっても、正確な実施ができなければ評価されないということが明確になっており、膝やつま先の姿勢欠点や低い着地姿勢などには必ずと減点が付き纏い、内容によっては転倒した実施と同等の E スコアを受けることもあった。

種目別選手権においては、2 本の跳越技のうち片方がローチェを跳越する選手が多くみられた。（10 演技）しかしローチェの完成度は決して高くはなく、多くの選手が尻もちまたは転倒という結果であった。着地は止まったものの、第 1 局面や第 2 局面での脚開きやつま先のまがりを減点覚悟のまま実施している選手が多かった。

今回の世界選手権では、跳馬の E 審判は第 1 局面、着手、第 2 局面、着地の 4 部分の減点を入力する方式が採用されたようで、国内でも対応していくかどうか今後論議が持たれるかもしれない。いかにせよ、高い価値点の跳越で減点箇所を一つ一つ懇切丁寧に改善していく努力は今後必要となってくる。

□ 平行棒

2022 年版の新ルールが適用され、技の統合や同一系統の技の制限が厳しくなったことにより、演技構成を見直す必要を迫られた選手が多くいたようである。とりわけ、「棒下宙返り倒立」と「棒下宙返り 1/4 ひねり倒立」の統合は多くの選手に影響があり、別技の実施を余儀なくされた。

演技構成での技の配分ではグループⅢの技が多く取り入れられている傾向であるが、E 難度に格上げされた「後方車輪ディアミドフ」を取り込むなど、制限が高まる中でも D スコアを高める意向が見えたことは歓迎したい。

終末技では「前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り」が E 難度へと格下げとなったため、「後方屈身 2 回宙返り下り」(D) に変えてくる選手も見られた。全日本個人総合決勝、NHK 杯それぞれの大会でいずれかの実施が大多数を占めたが、止められた着地は 3 分の 1 ほどであり、準備、着地姿勢、着地までまとめられた演技は少なく感じた。

新ルールでの E 採点では「前振り上がり」の減点の尺度が詳細に示された。減点が科せられない様に意識をした姿勢は見られたが、高難度技に繋げるための実施では減点がなくとも、腕支持で受けた後での捌きで減点が少なからず発生する実施が多かった。そのため、演技構成上複数回の前振り上がりを実施する選手はその都度減点が伴う実施が見られた。高難度技による腕支持受けの後処理を如何に対応するかが、今後の E スコアの差に繋がるであろう。メインとなる技の実施の向上とともに、後処理の捌きも抜かりなく対処するよう期待したい。

これら以外にはモイ、ティップペルト、バブサーを演技に入れている構成が多いが、倒立から後方に下ろす際の膝割れ、懸垂時の膝やつま先のまがり、バーやマットへのタッチやぶつかり、倒立の収めでの無用な握り替えや姿勢の微調整での減点が多かった。他、脚前挙支持や屈身力倒立での静止時間の不足による減点が目立った。

それでもルール改定後の初年度での演技再構成が求められた中、演技全体としてまとめてくる姿勢が見られ安定した実施を重視して取り組んできたという印象を受けた。今後はより D スコアを高めるとともに細かい欠点を一つ一つ対処していき、9 点台の演技を実施できるように期待したい。

□ 鉄 棒

ルールの改定により、「閉脚エンドー」や「閉脚シュタルダー」を取り入れた演技が多く見られたが、入れ抜きの際に器械へ接触してしまう実施が多数あり、「器械に触れる」または「器械にぶつかる」といった減点が散見された。同一系統の手放し技に特別な繰り返しの制限が新たに追加されたが、国内では全体的に大きな影響は無かったと感じる。また、手放し技の連続やアドラー系からの手放し技で組合せ加点を獲得する演技は微増した程度だった。

全日本個人総合並びに種目別決勝では、D スコアの平均が全体で 5.575、種目別決勝 8 名の平均が 5.925 だった。最も高いスコアは 6.7 で、続いて 6.6 そして 6.5 と国際的に見ても国内上位選手のスコアは高い傾向にある。

E スコアにおいては種目別決勝の 8 名の平均が 7.729 で、その内 3 名は落下を伴う演技だった。個人総合全体の E スコアは 7.977 で、全体の 38% が 8.0～8.5 の間に位置していた。また 7.5 を下回るスコアも同じく 38% と非常に大きな割合を示しており、不安定な演技が多かったことが伺える。落下および転倒はもちろんだが、手放し技の後の腕まがり、車輪での停滞、手ずらしなどの減点も散見された。手放し技でバーを再び握る際に 90° を超えて肘がまがった場合には大欠点を伴い、さらにその後の車輪でも同等の減点を科せられてしまう。これは落下の危険と隣り合わせとなってしまいが、安定して良い位置で握る事が望まれる。また、手ずらしについては上位選手においても改善が必要と感じた。アドラーひねりなどの技において角度逸脱の減点が中欠点または大欠点を伴う実施も多く見られた。ルール改定による影響は少なからずともあると思うが、体操競技にとって普遍的な雄大で美しい、安定した演技を大事にしつつ、より高い D スコアを獲得できるように期待したい。

4. 2022 年版採点規則修正、追加情報

I. 2022 年版採点規則正誤表

日本語版 2022 年版採点規則の追加・誤植等による訂正

(1) 本文

該当箇所	変更種類	変更内容 (赤字部分追加)
P.19 7-1 条 4.	文章追加	技(同一番号を持つ技を含む)は繰り返すことができるが、繰り返された技は D スコアに関与することはない。ただし、成立しなかった技を再び実施し、認められた場合は難度が与えられる。
P.21 7-5 条 3.	文章追加	繰り返した技(同一技番号の技)の難度や組合せ加点は与えられない。ただし、成立しなかった技を再び実施し、認められた場合は難度が与えられる。
P.27 9-3 条 2. b) i.	文章追加	技を繰り返すことは認められるが、難度や組合せ加点を得ることはできない。しかしながら、それらの実施も E 審判によって評価される。ただし、成立しなかった技を再び実施し、認められた場合は 難度および組合せ加点が与えられる。

(2) 難度表

該当箇所	変更種類	変更内容 (赤字部分追加)
P.113-125 平行棒難度表	ジュニア禁止技の●追加	I-48, III-10, 50, 52, 53, 58, 59, 60, 64, 66, 77, 78, 123, 124, 125, 126

II. 2022 年 6 月以降に公開された FIG 情報における Code of Points (採点規則) の追加・変更一覧

※引例資料 FIG Code of Points(July 2022 版), FIG NewsLetter No.01(June 2022), No.02(December 2022)

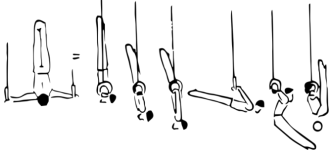
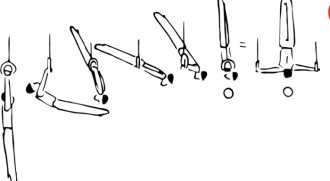
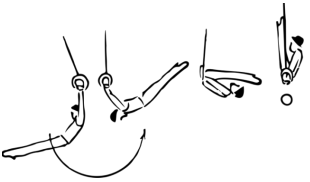
(1) 一般条項

該当箇所	変更種類	変更内容 (赤字部分追加)
P.8 2-4 条 罰則	項目追加	e)違反とそれに伴う罰則は次のとおり

(2) あん馬

該当箇所	変更種類	変更内容 (赤字部分追加・変更)
P.51 11-2 条-2 2. a.10)	文章変更	後方移動技において、選手は馬端馬背の外向き背面支持から技を開始することができる。
P.61 II-81	技名の追加	正面横向き支持から一腕上下向き 270°転向一把手支持 (ダフチャン) C 難度
P.64 III-28	技の追加・変更	縦(横)向き 3/3 移動直ちに 1/2 ひねり (把手～把手を越えて) (ティトフ) D 難度 *ニンレイズと同枠 
P.64 III-35	技の追加・変更	縦(横)向き 3/3 後ろ(横)移動 1 回ひねり (2 回の旋回以内で) (パークハート) E 難度 *ウルジカ 2 と同枠 

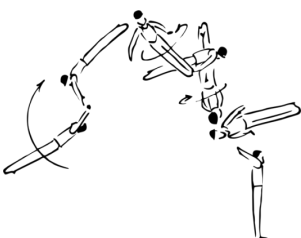
(3) つり輪

該当箇所	変更種類	変更内容 (赤字部分追加・変更)
P.70 12-2 条-1 2.	文章変更	演技開始時は腕と体を伸ばした正しい姿勢で懸垂しなければならない。 腕が垂直でない場合は小欠点となる。また、静止のない懸垂姿勢から力技に続けた場合、振動を利用したとして減点の対象となる。
P.71 12-2 条-2 5. g)	文章変更	背面懸垂は、(脚上挙)十字懸垂へ引き上げる開始の姿勢としては認められず、十字懸垂(や他の力静止技)の難度を高めることはできない。もし、(脚上挙)十字懸垂が直接、背面懸垂姿勢から引き上げられた場合は、採点規則上の単独の難度(それぞれ B または C)を得ることとなる。
P.81 II-81	技番号変更	II-81 → II-75
P.85 III-45	技番号変更	III-45 → III-57
P.85 III-46	技番号変更	III-46 → III-40
P.85 III-47	技番号変更	III-47 → III-59
P.85 III-48	技番号変更	III-48 → III-60
P.86 III-51	技番号変更	III-51 → III-39
P.86 III-52	技番号変更	III-52 → III-34
P.86 III-53	技番号変更	III-53 → III-71
P.86 III-54	技番号変更	III-54 → III-42
P.86 III-57	技番号変更	III-57 → III-45
P.86 III-59	技番号変更	III-59 → III-47
P.86 III-62	技番号変更	III-62 → III-56
P.86 III-64	技番号変更	III-64 → III-58
P.87 III-76	技番号変更	III-76 → III-46
P.87 III-89	技番号変更	III-89 → III-65
P.87 III-95	技番号変更	III-95 → III-77
P.88 III-101	技番号変更	III-101 → III-53
II-(技番号未定)	技の追加	十字倒立からゆっくりと下ろし逆懸垂経過、伸腕伸身逆上がり脚上挙十字懸垂 (2 秒) (ゾウ・ジンヤン) E 難度 
II-(技番号未定)	技の追加	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり十字倒立 (2 秒) (シーモノフ) F 難度 
III-(技番号未定)	技の追加	ホンマ脚上挙支持 (2 秒) (グラシア) C 難度 

(4) 平行棒

該当箇所	変更種類	変更内容 (赤字部分追加・変更)
P.110 14-2 条-2 3. h)	文章変更	ヒーリー、マクーツ系および前方宙返り支持系の技において、支持する際に肘が大きく(90°を超えて)まがった場合、難度は不認定となる。
P.110 14-2 条-2 4. a)	文章変更	終末姿勢や姿勢の異なる同じ種類の宙返り技を行うことはできない。(同グループ内) 以下の場合、最も高い難度のものをカウントする。 例：かかえ込みモリスエと屈身モリスエ ：かかえ込みベーレと屈身ベーレ ：前方宙返り開脚抜き腕支持と屈腕支持、または直接懸垂になる技(Ⅱ-53、Ⅱ-54を含む) ：懸垂前振り後方宙返りひねり系の技(Ⅲ-64、65、71、77)
P.112 I-1	技名変更	後ろ振り(単棒)倒立(2秒)
P.117 Ⅱ-15	技名変更	ほん転 1/4 ひねり単棒横向き倒立経過 1/4 ひねり倒立(コフトウン)
P.117 Ⅱ-6	技名変更	前振り上がり 3/4 (1/4) ひねり単棒倒立 *単棒横向きけ上がり系の技に繋がった場合
P.123 Ⅲ-73	技名変更	け上がり支持

(5) 鉄棒

該当箇所	変更種類	変更内容（赤字部分追加・変更）								
P.130 15-2 条-1 1.	文章追加	選手は、両足をそろえた直立姿勢もしくは短い助走からジャンプするか、補助により正しい懸垂姿勢にならなければならない。採点は、選手の足がマットから離れたときから開始される。演技開始の振り出しは、最大3回のスイングが認められる。3回を超えたスイングは 0.3 の減点を伴う。前や後ろへのいかなる動きもスイングとして数える。さらに、とびついでのスイングや、コーチが選手を押して振動を与える場合もスイングとして数える。								
P.133 15-2 条-2 17.	文章追加	伸身トカチェフについて バーを再び持つまで、全て伸身で実施しなければならない。バーを越える前に 45°以上の腰まがりがある場合、屈身トカチェフ(C難度)として認定される。バーを越えたのちに 45°以上の腰まがりがあった場合はD難度として認定するが、相応の減点がある。さらに明確化すると、これは、足先がバーの上を通過する時に身体がまっすぐでなければならないことを示している。								
P.134 15-3 条	減点の変更	<table><tr><th>欠 点</th><th>小欠点 0.10</th><th>中欠点 0.30</th><th>大欠点 0.50</th></tr><tr><td>エンドー、シュタルダー、ワイラーの技の 開始時における倒立位からの逸脱</td><td></td><td>+</td><td></td></tr></table>	欠 点	小欠点 0.10	中欠点 0.30	大欠点 0.50	エンドー、シュタルダー、ワイラーの技の 開始時における倒立位からの逸脱		+	
欠 点	小欠点 0.10	中欠点 0.30	大欠点 0.50							
エンドー、シュタルダー、ワイラーの技の 開始時における倒立位からの逸脱		+								
IV・(技番号未定)	技の追加	バーを越えながら、後方伸身 2 回宙返り 3/2 ひねり下り (フォーク) E 難度 								

5. 難度認定及び演技実施の確認事項と FIG 通達

□ ゆ か

1. 難度認定の確認事項

- 1) すべての力倒立技は静止が必要であり、静止時間と技の認定に関してはより厳密に判定する。
- 2) 力倒立において、倒立へ上げる際に手で歩いた場合や脚下がりが見られた場合は、力倒立に対する価値は認められない。しかしながら、その後倒立に持ち込み、静止が見られた場合は、倒立（I-19）としての価値のみ認められる。
- 3) 二つの力技で一つの難度を得る技において、片方に静止がみられなかった場合は、もう片方の低い難度のみを認定する。

例) マンナ(1秒)から伸腕屈身力倒立(静止無し)を行った場合、マンナのC難度のみを認定。

水平支持(静止無し)～伸腕伸身力倒立(2秒)を行った場合、倒立のA難度のみを認定。

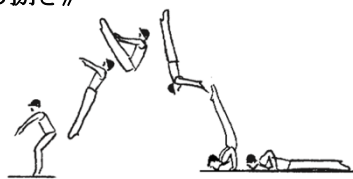
- 4) 開脚座から伸腕屈身力十字倒立において、開脚立ち姿勢が見られた場合はB難度と判定する。
- 5) マンナから肩転位して倒立（I-16）は、双方の姿勢での静止を必要とする。
- 6) エンドー（I-68）の正しい捌きは、手から着地し、コントロールされながら正面支持臥に入ることである。下の図（右）は、D 審判によって不認定となり、E 審判によって不安定な着地の減点となされる例である。

【FIG NewsLetter 2】



《正しい捌き》

《不認定となる捌き》



- 7) 旋回ひねり倒立系の技は、ひねりの動作から直接倒立に持ち込まなければならない。
- 8) ゴゴラーゼのように倒立から下して旋回を行う技は、技が完了する際に明確な正面支持を示さなければならない。
- 9) シュピンドル倒立技について

1つの独立した技として認定されるために、シュピンドル（I-92）は最大2回の旋回（開始姿勢から3回の正面支持）で実施されなければならない。

【FIG NewsLetter 2】



EG I-93, 100 においては、3回目の正面支持が倒立に持ち込む局面である。



- 10) 両足旋回から続けられたロシアン転向技は、両足抜き後の正面支持から転向度数を数える。両足旋回をせずにロシアン転向技を実施した場合、最初の正面支持から転向度数を数える。
- 11) 特別な繰り返し

演技中、最大2つまでの力技（力倒立技群含む）と、2つまでの開脚・閉脚旋回技、ロシアン系の技を実施することができる。3つ以上実施した場合は各々難度の高いもの2つを認定する。

- 12) 組合せ加点は「加点対象となる技の組み合わせ（下表左）」を、「加点対象となる難度の組み合わせ（下表右）」で実施した場合に与えられる。

●加点対象となる技の組み合わせ方

・ 2 回宙返り + B 難度以上の宙返り ↑ 逆も可
・ ひねりのない 1 回宙返り + D 難度以上の宙返り (B 難度) ↑ 逆も可

●加点対象となる難度の組み合わせ方

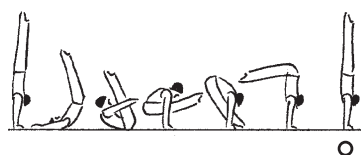
D 以上	+	D 以上	=	0.20
D 以上	+	B or C	=	0.10
		↑ 逆も可		

- 13) 大欠点のある場合は組合せ加点が認められない。また、着地の際に瞬時のコントロールも示さないような実施も、組合せ加点の対象としない。
- 14) 組合せ加点に関わる宙返りは、Dスコアにカウントされる技に含まれていなければならない。
- 15) 3 技連続した場合は双方に組合せ加点が与えられる。(例) B+D+B=0.2
- 16) 組合せ加点が与えられる回数に制限はない。
- 17) ひねりを伴う 1 回宙返り技どうしが直接つながっていても、組合せ加点は与えられない。
- 18) 切り返し系の宙返り技には組合せ加点は与えられない。
- 19) 繰り返された技やグループが 5 技を超えて削除された技との組み合わせは認定されない。
- 20) 難度表に載っていない 1 回宙返りでのひねり技（後方かかえ込み宙返り 2 回ひねり等）が実施された場合は、伸身で行った場合の難度を与えるが、E 審判によって減点される。
- 21) アクロバット技で部分的に膝がまがった場合においても技の難度が下がることはない。
例) 前方伸身宙返り 1 回ひねりで着地の前に膝がまがった場合でも、前方伸身宙返り 1 回ひねりとして認定することができるが、あいまいな姿勢(かかえ込み・屈身)として減点される。
- 22) 技は繰り返すことはできるが、繰り返された技の難度や組合せ加点は与えられない。しかしながら、それらの実施も E 審判によって評価される。また、成立しなかった技を再び実施し、認められた場合は難度および組合せ加点が与えられる。
- 23) 演技は両足を揃えて着地する跳躍技で終了しなければならない(グループ I では満たせない)。
- 24) ゆかにおいて、演技の最後に実施した技（跳躍技に限る）を終末技と判定し、グループ IV の価値が与えられるが、同時にその技はグループ II または III の一つとしても捉えられる。終末技を含めて同一グループの技が 6 技以上あった場合は、終末技を最初にカウントし、最も難度の低い技から除外される。
- 25) グループ II または III の技が終末技のみで実施された場合（その他では実施なし）、その技はグループ IV とみなされ、グループ II または III の技としての価値（0.50）は与えられない。
- 26) 終末技で、既に実施された技が繰り返された場合、終末技の難度とグループは与えられない。

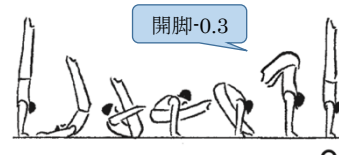
2 演技実施上の確認事項

- すべての力技（力倒立技群含む）は静止が必要である。静止時間が 2 秒に満たない場合の減点（0.30）、静止が見られない場合の減点（0.50）。
- 十字倒立への経過で、速いリズムで倒立に持ち込む捌きの減点（0.10）。
- 十字倒立は足を閉じなければならず、頭部が床面から手のひらの厚さ以内にあること。
- ロシアン転向技で反り身の目立つ姿勢は減点（0.10）。
- 前転脚前拳支持経過閉脚倒立(I-45)で開脚倒立した場合、無価値な開脚として減点（0.30）。

《正しい捌き》



《不認定となる捌き》



- 6) 脚上挙支持は、上半身と脚部に開きがある捌きは柔軟性に欠ける減点 (0.10・0.30)。
マンナは、脚部の裏側が水平で減点なしとなり、第9-2条9項に則って角度の減点。
(15°まで：0.10、>15°～30°：0.30、>30°～45°：0.50、45°を超える：0.50不認定)
- 7) 倒立へ上げる途中での脚の下がり、第9-3条2項d)に則って減点の対象となる。元の位置から (15°まで：0.10、>15°～30°：0.30、>30°～45°：0.50、45°を超える：0.50不認定)
- 8) アクロバット技間の動き・コレオグラフの工夫は演技の持ち味となるが、無味乾燥とした動き、指先まで意識されていない姿勢不良に対しては減点。
- 9) アクロバット技などの前に2秒以上停止してはならない (0.10)。2秒の計測は選手が立った瞬間に始まり、単純な腕の動きなども停止時間に含まれる。
- 10) 宙返りの着地後すぐにコーナーなどへ移動する捌きは、安定した着地をとることができる実施を前提とし、不安定な着地姿勢からの移動は実施減点 (0.10・0.30・0.50)。
- 11) コーナーでの単純な場所取りや方向転換、単純なステップや移動の減点 (0.10)。
※180°以上のターン、ジャンプ、脚を水平以上に挙げる動きが含まれなければならない。
- 12) かかえ込み宙返りにおいてあいまいなかかえ込み姿勢の減点 (0.10・0.30)。
- 13) 一つの宙返り技の脚の開き等の減点は一か所に集約する。
例) わずかに脚が開いた2回宙返り≠0.20。
- 14) アクロバット技のやや高さが無い実施の減点 (0.10)。
- 15) アクロバット技でひねり不足がある場合の減点 (0.10・0.30・0.50)。
- 16) アクロバット技の連続で安定した着地を示しても高さ(浮き)がない場合の減点(0.10・0.30)。
- 17) 着地姿勢が低い、または余裕のない着地に対する減点 (第9-4条 その他の技術欠点)
(0.10・0.30・0.50)。
腰が膝より下にある場合、低い着地姿勢に対する減点 (0.50)。【FIG NewsLetter 2】
- 18) 着地後、明らかに手や膝で支えるような場合は転倒と判定 (1.00)。
- 19) 宙返りの着地で転倒した場合の減点は最大1.00とする。3歩動いて転倒≠1.30。
- 20) 宙返りの着地後に即時ジャンプをして臥せる捌きは欠点 (0.50)。
- 21) 宙返りや終末技での着地において、選手は安全上の理由により脚を開いて着地をすることができる。最初の着地で足が10cmを超えて開いた場合、つま先を浮かさず踵を揃えたとしても0.10または0.30の減点となる (9-4条 着地で脚を開く)。【FIG NewsLetter 2】
 - ・10cm以内に脚を開いて着地し、つま先を浮かさず踵を閉じる・・・・・・減点なし
 - ・10cm以内に脚を開いて着地し、脚を上げて踵を閉じる、または、脚を閉じない・・・0.10
 - ・肩幅を超えて脚を開いて着地し、脚を上げて踵を閉じる、または、脚を閉じない・・・0.30
 ※その他全ての実施減点 (宙返りの空中局面や着地準備の際の身体の開き) も常に評価の対象となる。

3 ニュートラル・ディダクション (ND)

- 1) すべてのコーナーを使わない・・・・・・0.30
※最終タンブリングが未使用のコーナーへ向かった場合、そのコーナーを使用したとみなす。
- 2) 3回を超えた同じ対角線の連続使用・・・・・・0.30
※同じ対角線を3回続けて使用した場合、その次にゆかフロアの一辺(サイドライン)を使用し、別のコーナーに向かわなければならない。
- 3) 2回 (3回) 宙返り技がない・・・・・・0.30
- 4) フロアエリア外で技を開始する・・・・・・価値は認められない

□ あん馬

1. 難度認定上の確認事項

- 1) 一把手上で行うすべての交差倒立技は、倒立の前後で支持の手あるいは把手を替えなければならない。
- 2) すべての交差技の終了姿勢は脚を前後に開いた開脚支持である。その際、大腿部や臀部が馬体に乗った場合は難度不認定となる。
- 3) 交差倒立技は身体が伸びた姿勢のまま倒立に持ち込まなければならない。腰が 90° 以上まがった実施や、足先が両把手間上を通過した実施は難度不認定となる。【FIG NewsLetter 2】

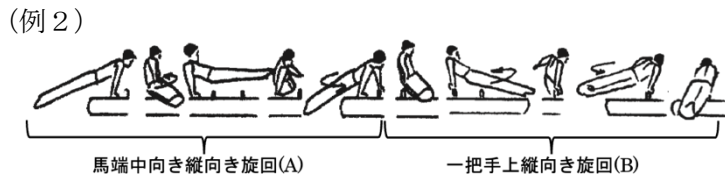


- 4) 交差倒立技において、技の前後に難度を上げることを目的とした動きを付け加えることはできない。例) リーニン (I-4) に、とび動作を加えても難度の格上げは認めない。
- 5) 交差倒立技で片手が把手から下りて把手に戻った後、さらにどちらかの手が把手から下りた場合は難度不認定となり、E 審判は 0.50 (演技停止) または 1.00 (落下した場合) + 他の実施減点となる。
- 6) 倒立位を経過する交差技や終末技において、倒立への上昇局面で足先が下がったり、著しく停滞したりした場合は難度不認定となる。
- 7) グループ II および III のすべての技は、次の技に続けなければ難度は与えられない。実施された技の終末姿勢 (正面支持) に続いて、少なくとも 180° を超える旋回 (背面支持) または転向 (正面支持) を示した後に落下した場合、その技は認定される。(例外: 両足で旋回の入れ後、片足で残りの半円を終了し、その後に片足振動技・交差技を続ける。)
- 8) 他に記載されていない限り、すべての旋回技の開始と終了は正面支持である。下向き転向 (伏臥) やショーンにおいて背面支持から片足振動技につなげた場合は難度不認定となる。
- 9) ショーン (II-65) とベズゴ (II-83) は両把手正面支持から全転向し両把手正面支持で完了する技である。両把手正面支持で技を完了できなかった場合これらの難度は認められない。
- 10) ショーンとベズゴは立位から (旋回無しで) 行くと、2 段階の格下げとなる。
- 11) ベルトンチェリと 3/4 ベズゴ (ダフチャン) は両把手正面支持から始まり、一把手上縦向き正面支持で完了する技である。ベルトンチェリの終了時に 90° 転向を加えて一把手上横向き正面支持になった場合は難度不認定となる。
- 12) ロシアン転向 (移動) 技、移動技、フロップ、コンバインで落下した場合は部分的な難度は認定されない。
- 13) フロップ、コンバインの途中で手が一把手上から下りて落下せずに次の技に続けた場合は、完了している部分までの難度を与える。
例 1) SL=S (B) と L (B) を認定
例 2) LL=L (B) を認定
- 14) フロップとコンバインは直接続けることができず、少なくとも片手が一把手上から下りた旋回を挟まなければならない。
- 15) ロシアン転向技において、下向き転向の動作から始められた場合の開始局面は、正面支持になったところである。
- 16) マジャールまたはシバドを開脚旋回で実施する場合は、開始姿勢から終了姿勢まで常に開脚でなければならない。
- 17) 縦向きとび前移動 (馬端～馬端) (III-42: ドリッグス) は、明確なとびの後、両手同時正面支持を示した場合に F 難度と判定し、それ以外は E 難度 (III-41) と判定する。

- 18) 縦向き前移動技における開始および終了局面は縦向き正面支持である（例外：マジヤール〜シバド直接連続）。例えばマジヤールの終了姿勢で、縦向き背面支持姿勢を示した後に 90° 転向し、横向き正面支持で終了した場合（下図参照）は「縦向き前移動 2/3 部分（Ⅲ-38：B 難度）」として判定する。【FIG NewsLetter 1】



- 19) 馬端中向き縦向き旋回（A 難度）の終了局面は片手が一把手上でも良いが、それに続く技が縦向き前移動系の技である場合は、その縦向き旋回は移動技の一部となるため、認定されない（例 1）。続く技が一把手上旋回系の技であればどちらも認定される（例 2）。



- 20) マジヤール〜外向き縦向き旋回〜シバドを実施する場合の外向き縦向き旋回（A 難度）は馬端外向き正面支持から始まり、馬端外向き正面支持で終了となる。

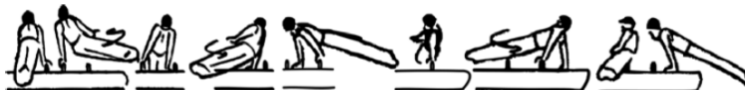


- 21) 以下に記載する技は特例として、技の開始時において正面支持姿勢がなくても技を認定する。

① マジヤールからシバドへの直接連続

マジヤールで馬端外向き縦向き背面支持に至った後、ただちにシバドを実施した場合、マジヤール完了の正面支持がなくても認められる。

② 両把手上での横向き正面支持から、両足入力で 90° 上向き転向しながら片手をあん部馬背に下ろし、縦向き後ろ移動（1/2 部分）



③ 馬端馬背外向き背面支持からのシバド



- 22) 縦向き後ろ移動の終了姿勢は中向き縦向き正面支持でも、横向き正面支持でも認められる。もしもシバドからロシアン転向技を実施する場合は、技が終了した正面支持（縦向きまたは横向き）から転向度数を数える。
- 23) 馬端馬背外向き背面支持から下向き転向移動技を実施した場合は、90° 転向した後の横向き正面支持姿勢を技の開始とする。

①ロシアン 270° 転向（IIA）



②把手を挟んだ横向き支持からロシアン 360° 転向移動（III C:クロル）



③馬端横向き支持からロシアン 630° 転向移動（IIID）



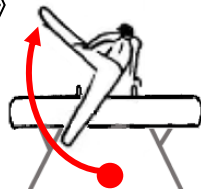
- 24) ウ・グオニアンは、あん部馬背支持に達するまでに 360°の転向を完了し、残りの 360°の転向を馬端馬背支持に達するまでに完了しなければならない。3 部分移動が完了した時点で 360°を転向し、続けて馬端馬背支持で 360°の転向をするような捌きは 2 技と見なす（ロス+ロシアン 360°転向）。
- 25) ウ・グオニアンの後に、あん部馬背ロシアン 180° を続けた場合、E+A を獲得することができる。「～° 以上」という言葉は移動中の転向を指す。
選手の両手が開始から逆の馬端馬背に達し、720°の転向移動が完了したようであれば、転向移動は完了したものとみなされ、いかなる採点規則掲載の技も新たに行うことができる（ロシアン 180° や 360° など）。
- 26) いかなる転向移動技もその後続くロシアン転向技によって難度が上がることはない。
例) トンフェイから下向き転向下り (D + A)
ロスから下向き転向360° (D+B)
- 27) モギルニー (III-58) とベレンキ (III-64) は、さらに技を加えても難度の格上げは認めない。
- 28) ロシアン転向下りは、常に馬端中向き縦向き正面支持から開始とする。
- 29) 終末技は 1 回に限りやり直すことが認められる。ただし、落下減点 (1.00) と実施減点を伴う。ポディウム (演技台) が設置されている場合、(階段を含め) ポディウムから下りた時点で、終末技をやり直す権利は失効となる。
- 30) 終末技は旋回技から実施しなければならない。片足振動技や不十分な旋回技からの倒立下りは終末技として認定しない。
- 31) 倒立を経過する終末技の途中で中断して下りた場合、移動やひねりが含まれていれば馬体を越えていなくても技の成立した部分までの難度を認定する。
例) DSA 倒立 3 部分移動 270° ひねり下り (D 難度) で、3 部分移動後にひねりが足りずに逆側に下りた場合、DSA 倒立 (C 難度) までを認定とする。

- 32) 倒立で 3 部分移動をする終末技において、最後の片手に重心が乗らず、触れた程度であった場合や、馬体の側面を使用した場合は 3 部分の使用とは認めず、難度の格上げはしない。
- 33) 終末技において、明確な足からの着地が見られずに転倒した場合は、難度不認定となる。

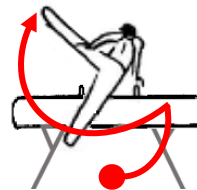
2. 演技実施上の確認事項

- 1) 交差技以外の片足振動技においても大きさのない実施は減点となる (0.10、0.30)。
- 2) とび交差技や交差横移動技についても、大きさの減点は交差技と同様に扱う。交差技において、大腿部や臀部が馬体に乗った場合は器械上への落下とする。
- 3) 片足振動技で開始する際の余分な予備振動は 0.30 の減点となる。半振動は認められる。

《減点無し》



《予備振動-0.3》



- 4) 倒立を経過する交差技は振動で実施されるべきであり、腰をまげて倒立位に持ち込む捌きに対する減点は 0.10 または 0.30 であり、90° 以上で 0.50 となる。また、倒立で足を閉じない場合は、0.10 または 0.30 の減点となる。
- 5) 縦向き旋回と移動において正しい向きからの逸脱は減点の対象である (0.10、0.30、0.50)。
- 6) 縦向き移動技で移動した後の終末局面で向きが不正確な実施は減点の対象である。
- 7) 縦向き移動技の向きの逸脱や着手位置のずれは旋回 (一部分移動) ごとに減点の対象である。
- 8) フロップ・コンバイン技は一転向、一旋回ごとに減点の対象である。
- 9) 転向技や転向移動技での脚開きは一転向毎に減点をする (0.10、0.30、0.50)。
- 10) 旋回技において馬体に触れる (ぶつかる) 実施は毎回減点となる。(触れる 0.10、ぶつかる 0.50)
- 11) 旋回もしくは開脚旋回から倒立 (終末技や演技) について
旋回または開脚旋回から倒立を試みる場合、腰のまがりに対する減点はない。しかしながら、力の使用、腕のまがり、腰が下がること、不安定性についての減点是有り得る。一方で、交差からの倒立については腰のまがりの減点は適用する。
- 12) 倒立を経過する複合技 (ブスナリ等) での停滞は減点の対象である。
わずかな停滞・・・0.10
明らかな停滞・・・0.30
2秒以上の停滞・・・0.50 (不認定)
- 13) 交差技や片脚振動での大きさ不足の減点を明確化する (採点規則 11-3 条)

	足先が肩の高さよりも上	足先が肩の高さと水平の間	足先が水平よりも下
振幅の度合い			
減 点	0.0	0.1	0.3

3. ニュートラル・ディダクション (ND)

- ・馬体の 3 部分を使用しない・・・0.30

□ つり輪

1. 難度認定上の確認事項

- 1) 高さ 290cm、10cm 厚の着地マットを使用すること。
- 2) すべての静止姿勢は最低2秒保持しなければならない。
- 3) 演技は、腕を垂直にまっすぐ伸ばした懸垂姿勢から開始されなければならない。腕が垂直でない場合、小欠点となる。また、その後の力技に対して技が静止した位置から開始されていないことにより、スイングを伴ったとして減点が与えられる場合もある。【FIG NewsLetter 2】
- 4) ジョナサンやヤマワキで支持が見えた場合は 0.50 の減点となり、難度不認定となる。わずかな支持の場合、0.10、0.30 の減点を伴い認定される。不認定の場合、選手の意図とは異なるため、「ホンマ支持」と「支持後ろ振り、前に回りながら懸垂」の 2 技に分割して価値を認めることはない。
- 5) 支持後ろ振り、前に回りながら懸垂（I-7：A 難度）は、水平支持や中水平支持から実施しても認定することができる。
- 6) 振動倒立技の要求について

演技中、一つの振動倒立技（2 秒）が要求されカウントする 10 技（ジュニアでは 8 技）に入っていなければならない。この要求を満たすことができるのは以下の 5 技だけである。

- * I-75 後方車輪倒立（2 秒） ほん転逆上がり倒立（2 秒）
- * I-81 前方車輪倒立（2 秒） 後ろ振り上がり倒立（2 秒）
- * I-86 支持後ろ振り倒立（2 秒）
- * I-87 ホンマ支持後ろ振り倒立（2 秒）
- * I-88 伸身ホンマ支持後ろ振り倒立（2 秒）

- 7) 中水平支持は、肩が握り手と同じ高さで、身体を一直線に保持しなければならない。また、腕は広げられ、上体に触れない様に実施されなければならない。肩が完全に輪上部より高い位置にあった場合、水平支持と判定する。

肩の高さについて



中水平支持

肩が握り手と同じ高さ



水平支持

肩が輪上部よりも高い

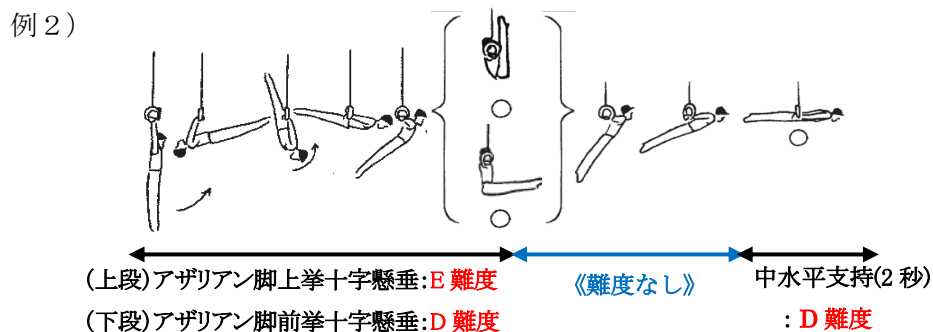
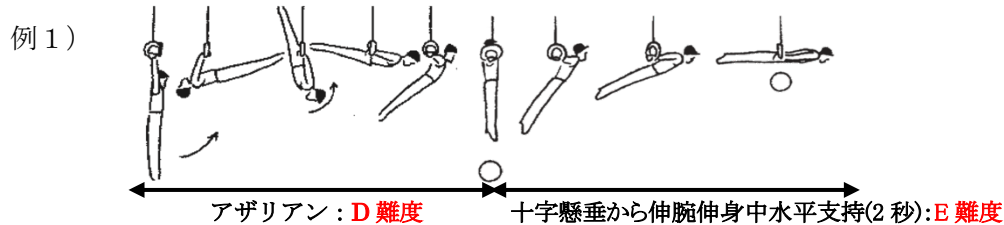
- 8) アザリアンやヤン・ミンヨン（ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり水平支持）は、伸腕かつ伸身姿勢での後転が前提であり、肘のまがりや腰のまがり実施減点となる。明らかに反動を利用した場合、グループⅢの技として判定する。
- 9) ナカヤマについては、背面水平懸垂姿勢を経過し、ゆっくり捌かなければならない。明確に背面水平懸垂まで下ろさないものは単なる十字懸垂（B 難度）と判定する。また、反動を使うような捌きは D 難度として認定しない。
- 10) 水平支持（水平支持と開脚水平支持）は各グループで一度ずつ、一演技中 2 回まで価値を認定する（EGⅡとⅢ）。その際、最も難度の高いものから順に認定する。
- 11) バランディン系の技は懸垂から引き上げる際に脚が前方に 45° を超えて屈身姿勢となつてはならず、鉛直方向の姿勢で輪を超えて肩角度が 45° 以上高くなる場合には難度が認定されない。

【FIG NewsLetter 2】



- 12) II-27 支持(水平支持)から伸腕伸身力倒立(2 秒)は、身体が鉛直面を通過してからは伸身姿勢を保持し続けなければならない。鉛直面を越えてから 45° を超えて身体をまげた場合、その技はII-26 伸腕屈身力倒立（2 秒）として判定される（9-4 条 E 審判の減点項目）。

- 13) 十字懸垂から伸腕伸身中水平支持 (2 秒) (Ⅱ-89 E 難度) は、静止した十字懸垂から実施する技であり、脚前挙十字懸垂や脚上挙十字懸垂からの実施は認められない。もし、それらの技から伸腕伸身中水平支持 (2 秒) を実施した場合は、引き上げて持ち込むことは考慮されず、単独の中水平支持に対して D 難度 (Ⅱ-10) が与えられる。【FIG/MTC 情報】



- 14) 9-2 条 9 に関して: 「いかなる理由でも難度の認められなかった力静止技からの引き上げ技は、難度が認められない。」とあるが、最終終末姿勢の部分については認定することができる。
例) け上がり十字懸垂(角度不認定)+引き上げて中水平支持(中水平支持で完璧な実施: Ⅱ-89) = この場合、中水平支持 (Ⅱ-10) は D 難度で認定することができる。
- 15) 十字懸垂 (十字懸垂、脚前挙十字懸垂、脚上挙十字懸垂) は各グループで一度ずつ、一演技中 2 回まで価値を認定する (EG Ⅱ と Ⅲ)。その際、最も難度の高いものから順に認定する。
例) 「アザリアン～ナカヤマ～前振り上がり脚前挙支持～伸腕伸身力倒立」の判定は、
D+不認定 (同グループの十字懸垂) + B+不認定 (力技 4 技目)
- 16) 背面懸垂は、十字懸垂などへ引き上げる開始の姿勢としては認められず、十字懸垂 (や他の力静止技) の難度を高めることはできない。もし背面懸垂から十字懸垂に引き上げても、単独の難度 (B) を得るのみである。
- 17) すべての振動からの力静止技は、肩の位置が最終的な静止位置の高さを超えてはならない。どのような逸脱でも E 審判によって相応の減点がなされる。「ホンマ十字懸垂」で持ち込む際に 45° を超えた角度の逸脱は難度を認定しない。しかし、最終的に十字懸垂が静止している場合には B 難度は認められる。
- 18) 振動から力静止技に続く技のうち逆方向に戻るものは (たとえば「前振り上がり中水平支持」「前振り上がり十字倒立」など) 二つの技とみなす。
- 19) 構成上の減点は 0.30 となる。例えば、ホンマ支持から脚前挙支持に脚をあげることや開脚前挙支持から脚前挙支持にもどすこと、け上がり支持から脚前挙支持に脚をあげること等である。(ホンマ支持から振り上げて開脚前挙支持は、構成上の減点にはならない。)

2. 種目特有の繰り返し

1) グループⅡ・Ⅲの連続について

グループⅡやⅢを連続して4回続けることはできず、D審判によって難度は認定されない。3連続の後にグループⅠのB難度以上の技が入れば改めて3連続が可能である(ただし、け上がり・後方

け上がり系、およびその同一棒の技を除く)。このB難度以上の振動技はカウントされる10技内ではない。

例 1)	後ろ振り上がり中水平支持	Ⅲ-E		認定
	アザリアン	Ⅱ-D		認定
	後ろ振り上がり十字懸垂	Ⅲ-C		認定
	後ろ振り上がり支持	I-A		認定
	伸腕屈身力倒立	Ⅱ-B		不認定 (EGⅡ/Ⅲ 4連続)

例 2)	後ろ振り上がり中水平支持	Ⅲ-E		認定
	アザリアン	Ⅱ-D		認定
	後ろ振り上がり十字懸垂	Ⅲ-C		認定
	後ろ振り上がり開脚前拳支持	I-B		認定
	伸腕屈身力倒立	Ⅱ-B		認定 (※)

※「後ろ振り上がり開脚前拳支持」がカウントされる10技に含まれる必要がある。

例 3)	後ろ振り上がり中水平支持	Ⅲ-E		認定
	け上がり脚前拳支持	Ⅲ-B		認定
	十字懸垂 (静止なし)	Ⅱ-B		不認定
	伸腕屈身力倒立	Ⅱ-B		不認定 (EGⅡ/Ⅲ 4連続)

※「実施された」グループⅡ・Ⅲの技は全て、カウントする技に入っていないとしても、この規則に関与する。不完全な実施や繰り返しにより不認定になった場合も含まれる。

2) 終末姿勢が同一の力静止技について

Dスコアの算出にあたり同一番号技の繰り返しは認められないが、つり輪の場合この規則は拡大解釈される。それは、終末姿勢が同一の力静止技は各グループで1技だけ、最大2技の難度が認められるというものである(一方はグループⅡで他方はグループⅢ)。もしも、同一グループかつ終末姿勢が同一の力技を複数実施した場合は、最も難度の高い技のみが認定される。

注) 十字懸垂・脚前拳十字懸垂、脚上拳十字懸垂は全て同一の終末姿勢とし、開脚水平支持・閉脚水平支持においても同一の終末姿勢としてあつかう。

例1)	後ろ振り上がり十字懸垂 (Ⅲ-C)	～	ホンマ十字懸垂 (Ⅲ-D)
	不認定		認定
例2)	アザリアン (Ⅱ-D)	～	ホンマ十字懸垂 (Ⅲ-D)
	認定		認定
例3)	け上がり十字懸垂 (Ⅲ-C)	～	ホンマ脚上拳十字懸垂 (Ⅲ-E)
	不認定		認定

3) グチョギー系の技は最大2回まで認められる。例えば、グチョギーをかかえ込み、屈身、伸身姿勢で3回実施した場合、難度の高い2技のみが認定される。(特別な繰り返し)

3. 演技実施上の確認事項

- 1) 力静止技において、2秒未満の静止は減点 (0.30)、静止無しは減点 (0.50)。
- 2) 後方車輪 (ほん転逆上がり) 倒立経過において、腕が完全に揃っていない捌きや、倒立位を経過していない場合の減点 (0.10、0.30)。
- 3) ヤマワキやジョナサンで回転速度が遅い、または大きさが大きい場合の減点 (0.10、0.30)。

- 4) ヤマワキやジョナサンの回転途中に支持が見られた場合（止まりかけて前ロールをするような捌き）の減点（0.50）。
- 5) 振動や引き上げからの力技において、最終姿勢よりも肩や体の位置が上がってはならない。最終姿勢からの逸脱が 45° を超える場合は、その価値が認められず、0.50 の減点となる。その後、最終的な静止姿勢がみられた場合はその技は認められる。
 例 1：肩角度が 45° を超える高さから持ち込まれたホンマ十字懸垂は、0.50 減点され、静止時間が満たされていれば十字懸垂の B 難度が与えられる。
 例 2：肩角度が 45° を超えた十字懸垂から中水平に引き上げられた場合は、0.50 減点され、静止時間が満たされている場合は中水平支持の D 難度が与えられる。
- 6) 演技開始時や十字懸垂、中水平支持などの後に腕をまげて逆懸垂になる捌きは減点（0.10、0.30、0.50）。
- 7) 力静止技や静止技に持ち込む際の肘のまがりの減点（0.10、0.30、0.50）。
 例：振動からの中水平やけ上がり十字懸垂の際の肘のまげ伸ばしを利用した持ち込み方など。
- 8) 力静止技での深すぎる握りは許されない。深すぎる握りとは力技の際、負担を軽減するために手首を巻き付ける実施のことであり、毎回 0.10 の減点となる。正しい握りとは、手指が輪を握るかどうかでなく、手首がまっすぐな捌きである。※輪の（手首がまっすぐで手を開いた）握り方は評価の対象ではない（誤った握りではない）。
- 9) 倒立位で腕がケーブルに触れる、肘や腰を使って調整などの減点（0.10、0.30）。
- 10) 技術的に最低限前腕部がケーブルに触れることが必要となる、屈腕による力倒立技に対してのみ、ケーブルに触れたことに対して減点しない（Ⅱ-25：屈腕屈身（開脚）力倒立（2 秒））。
- 11) 難度表にない技（逆懸垂、屈身逆懸垂、背面懸垂姿勢）の 2 秒以上の停滞の減点（毎回 0.10）
- 12) 輪（ケーブル）の揺れやゆがみは、1 技毎に 0.10 の減点となる。
- 13) 十字倒立で、頭頂部が輪よりも高い位置での実施の減点（0.50）。
- 14) 十字倒立で反った姿勢に対する減点（0.10）。
- 15) 中水平支持や開脚水平支持で、肩が静止していても足先が垂れ下がってきたり、全体的に小刻みに揺れているような実施では静止とは認められず、全く静止していない減点（0.50）に抵触する。
- 16) 中水平支持において腕が体に触れたり支えたりする（0.10、0.30）。
- 17) 屈腕伸身力倒立で振動を使った場合の減点（0.10、0.30）。
- 18) 伸腕屈身力倒立で肘がまがった場合、肘まがり減点（0.10、0.30）とケーブルに触れる減点（0.30）。
- 19) 脚上挙支持や脚上挙十字懸垂は、上半身と脚部に開きがあるような捌きは柔軟性にかかる減点の対象となる（0.10、0.30）。脚上挙支持の脚は垂直でなければならない（脚上挙十字懸垂は、腕が水平で脚が垂直）。
- 20) 演技開始の懸垂で正しい姿勢からの逸脱（肩転位や輪を開いた状態）が見られる場合は、減点の対象とする。
- 21) 押し上げ技や引き上げ技で姿勢の変化に乏しい実施は実施減点の対象となり、不認定となる可能性もある（中水平支持～水平支持）。また、角度が高い力静止技から続けられた引き上げ技では、最大 0.30 の減点がこの過失に適用される。
- 22) け上がり系の技は、深く腰をまげた姿勢から開始され、明確に大きな振動を伴って実施される振動系の技である。Ⅲ-59 後方け上がり中水平支持（2 秒）のようなけ上がり系の技で、最小限しか腰をまげない捌きや、振動よりも力を使った場合は、小・中・大欠点となる。（9-4 条 E 審判の減点項目）

4. ニュートラル・ディダクション（ND）

- ・ 振動倒立技がない・・・0.30

□ 跳 馬

1. 難度および演技実施上の確認事項

- 1) 種目別予選および決勝において、得点の算出方法は第一跳越と第二跳越の平均を得点とする。
- 2) 高さ不足（上昇局面のみられない実施）は以下の基準とする。
 - 減点なし = 群を抜く卓越した高さ
 - 小 欠 点 = 浮いたと感じる程度
 - 中 欠 点 = 浮きがみられない
 - 大 欠 点 = 低いと感じる
- 3) 全ての跳越技において、準備局面がみられない着地は減点となる（0.10、0.30）。
- 4) 着地の際の姿勢で、頭や腰の位置が低い姿勢は減点の対象である。
低い着地姿勢とは、腰が膝より下にあると定義され、技術欠点として 0.50 の減点となる。（9-4 条 その他の技術欠点）【FIG NewsLetter 2】
- 5) 着地一步の踏み出しで、一足長以上は中欠点である。
- 6) 軸ぶれやひねり不足による横方向への一步は、さらなる減点の可能性がある。
- 7) ひねり不足が 90° を超えた場合、一段階下の技の価値を与える。
- 8) 着地が止まっても脚が開いたままやずれている場合は減点の対象である。
- 9) 着地後に、マットを越えて前に飛び出した場合、ライン減点は適用されない。マットの先へ到達するよりも前に、着地エリアからラインを踏み越えたり飛び出したりした場合には、通常のライン減点が適用される。
- 10) 第一局面でロンダートから 1/2 ひねりを加えて着手する技を実施する場合、着手時においてひねり不足に対する減点はありえる。「ひねり不足」の減点項目が該当し、正しい位置から 90° を超えて不足するような極端な実施の場合、その実施はユルチェンコ系の技として認定される。
- 11) 競技直前の 30 秒練習では、選手は最大 2 本のウォーミングアップ跳越が認められる。仮に 30 秒のウォーミングアップ時間が過ぎていたとしても、2 本跳越の権利を有する。これはすべての競技区分において適用される。ウォーミングアップ跳越の管理は線審が務めることとする。
ウォームアップ中、選手は 2 回までの跳越しか実施できない。跳馬の上に立ち、ジャンプや宙返りを行って着地をする場合も、1 回のウォームアップとして数える。
例えば、選手が助走からの跳越を 2 回行い、その後に跳馬の上にもう一度上がり、宙返りまたは跳び下りて着地をとった場合、3 回目のウォームアップとみなされ、採点規則に従って 0.3 の減点となる。【FIG NewsLetter 1】
※競技会により特例を認める場合は、主催団体の判断のもと対応すること（国内対応）。

2. 0 点となる実施について（D・E 両審判 0.00）

- 1) 跳馬に着手することなく跳び越えた場合、または跳馬に触れても突き手が見られない場合。
- 2) ロンダート技において、セフティ・カラーを使用しなかった場合。
- 3) 技として判定できないような場合、あるいは跳馬を足で蹴った場合。
- 4) 跳越において補助行為があった場合。
- 5) 最初に足による着地が行われなかった場合。これは、体のどの部分よりも先に少なくとも片足が着地マットに触れなければならないことを意味している。
- 6) 故意に横向きで着地した場合。
- 7) 禁止されている技を実施した場合（開脚技、第 1 局面での宙返り、踏切前の禁止された技等）。
- 8) 種目別予選および決勝において、1 回目と同じ技を 2 回目も行った場合。

3. ニュートラルディダクション (ND)

- 1) ライン減点
- 2) やり直された助走に対する減点
 - ・ 助走をやり直した場合 ⇒ 1.00 (失敗の助走が跳躍板や器械に触れなかった場合に限る)
 - － 1 跳越を行う場合、1 回のやり直しが認められる。
(3 回目の助走は認められない)
 - － 2 跳越を行う場合、1 回のやり直しが認められる。
(4 回目の助走は認められない)
- 3) 同じグループからの跳越に対する減点
 - ・ 種目別予選または決勝で同じ技を繰り返す ⇒ D・E 両審判 0.00
 - ・ 種目別予選または決勝で 2 回目の跳越を同じグループから実施する
⇒ 2 回目の跳越技の決定点から 2.00
- 4) 25m を超えた助走 ⇒ 0.50
- 5) 競技直前練習で 2 回を超えて跳越をする ⇒ 1 本目の跳越から 0.30

□ 平行棒

1. 難度認定の確認事項

- 1) 倒立または単棒縦向き倒立から始めるヒーリーは 360° のひねりが必要であり、単棒横向き倒立から $3/4$ ひねりの技は B 難度（I-50）とみなす。
- 2) マクーツ系の技の単棒倒立部分での停滞や停止に対する評価
 - 1 秒未満の停滞（D 審判：認定 E 審判：-0.10）
 - 2 秒未満の停滞（D 審判：認定 E 審判：-0.30）
 - 2 秒以上の停止（D 審判：不認定 E 審判：-0.50）
- 3) ヒーリー系の技につなげた場合に難度が上がる技
 - ・後方棒上宙返り単棒縦向き倒立 C 難度 → D 難度
 - ・棒下宙返り単棒縦向き倒立（シャルロ） D 難度 → E 難度
 - ・後方車輪単棒縦向き倒立（ピアスキー） C 難度 → D 難度
 - ・車輪ディアミドフ単棒縦向き倒立 E 難度 → F 難度

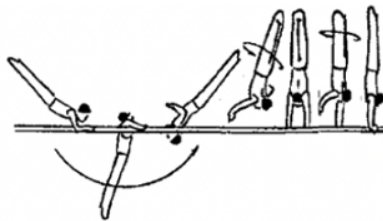
※あとに続けたヒーリー系の技も難度が一つ格上げとなる。

※あとに続けたヒーリー系の技が不認定になった場合は格上げしない。

※開脚になる技（ティップルトやアリカン等）は、単棒倒立になっても難度は上がらない。

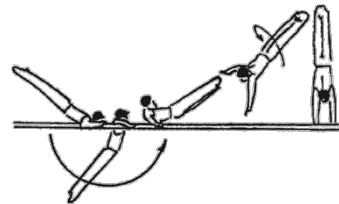
- 4) ヒーリー、マクーツ系および前方宙返り支持系の技において、キャッチ（手が入る）の際に肘が大きく（ 90° を超えて）まがった場合、難度は認められない。
- 5) 前振り上がり $1/4$ ひねり単棒倒立は、単棒横向き倒立から $1/4$ ひねって中に入り倒立になった場合は、「ほん転 $1/4$ ひねり単棒横向き倒立経過 $1/4$ ひねり倒立（C 難度）」であり、単棒横向き倒立から単棒横向きけ上がり系の技に繋がった場合は、「前振り上がり $1/4$ ひねり単棒倒立（F 難度）」と判定される。

ほん転 $1/4$ ひねり単棒横向き倒立経過 $1/4$ ひねり倒立（コフトゥン）：C 難度（II-15）



前振り上がり $1/4$ ひねり単棒倒立：F 難度（II-6）

*単棒横向きけ上がり系の技に繋げる



単棒横向きけ上がり系の技に繋げる
(例)

- 6) 棒下宙返り倒立で肘がまがっても上昇運動に停滞がなければ難度を認定する。しかし、上昇中に停滞する実施や肩が一度下がるような実施は難度不認定となる。
- 7) 棒下宙返りひねり倒立で倒立の角度が低い実施（ 45° 未満）をした場合、明らかな過失として難度不認定とし、棒下振り出しひねり支持（C 難度）としては判定しない。棒下振り出しひねり支持を実施する場合は、意図を明確に表現しなければならない。
- 8) 開脚抜き倒立技（ティップルト等）で脚がバーにのった場合、難度不認定となる（器械上への落下）。また、開脚支持で明らかに停止する実施や上昇時に足先が一端下がり再び上げた場合も難度不認定となる。
- 9) 懸垂前振り上がり開脚抜き伸身かつ水平位で懸垂：（バブサー：E 難度）の後に連続された技は独立した難度を有する。（後方車輪倒立（C）、モイ（C）、バーレ（D）など）

- 10) 屈身バーレは、最初の後方宙返りから明確な屈身姿勢を示さなければならない。懸垂から宙返りになる際に膝のまがるものや屈身の不明確な実施（屈身になるのが遅い）は、かかえ込みと判定する。
- 11) 前方 2 回宙返りひねり下りは、技の前半または後半のどちらでひねりを加えてもよい。
- 12) 特別な繰り返し
- ① 同じグループ内で、姿勢の異なる同じ種類の宙返り技を行うことはできない。
- 例) ・かかえ込みモリスエ (I-46) と屈身モリスエ (ファン・リーピン) (I-47)
- ・かかえ込みバーレ (III-58) と屈身バーレ (III-59)
- ・前方宙返り開脚抜き腕支持 (I-100)、屈腕支持 (I-101)、懸垂 (I-95)
- ・ギャニオン (III-123) とギャニオン 2 (III-124)
- ・懸垂前振り後方かかえ込み宙返りひねり腕支持 (III-64)、懸垂前振り後方かかえ込み宙返りひねり懸垂 (III-65)、トレス (III-71)、フォーキン (III-77)
- ・パクニック (II-53) とパクニック 2 (II-54)
- ② 最大 2 回までの後方車輪倒立技 (III-21、22、29、30、42、46、48)
- ・後方 (背面) 車輪 (単棒) 倒立 (III-21)、ピアスキー (III-22)、車輪ディアミドフ (単棒倒立) (III-29)、車輪ディアミドフ (1/4) ひねり (III-30)、車輪ディアミドフ単棒倒立* ヒーリーに繋がった場合 (III-42)、ダウザー (III-46)、バウマン (III-48)
- ③ 最大 2 回までの棒下宙返り (逆上がり) 倒立技 (III-106、107、108、114、119、120、130、131、137)
- ・棒下宙返り (単棒) (1/4 ひねり) 倒立 (III-106)、棒下宙返り (3/4) ひねり倒立 (III-107)、棒下宙返り 1 回ひねり倒立 (III-108)、棒下宙返り 5/4 ひねり倒立 (III-114)、シャルロ (III-119)、ヤمامロ (III-120)、横向き逆上がり 1/4 ひねり倒立 (III-130)、横向き逆上がり (3/4) ひねり倒立 (III-131)、マローン (III-137)
- ※いずれも難度の高い順にカウントする。

2. 演技実施上の確認事項

- 1) 振動から倒立位を経過する技は、15°未満の角度逸脱であっても減点 (0.10) となる。
- 2) 静止技として難度が認定されるためには 2 秒保持しなくてはならない。
- 例 1) 伸腕屈身力倒立で静止が 2 秒未満の場合の減点 (0.30)。
- 例 2) 伸腕屈身力倒立で静止がない場合の減点 (0.50 : 難度不認定)。
- 3) 支持から前方腕支持ローリングをした場合の減点 (0.30)。
- 4) すべてのけ上がりにつながる懸垂技は、伸膝で行わなければならない。膝をまげた懸垂姿勢の減点 (0.30)。
- 5) 宙返り技の受ける際の体の開きは、バーの高さで水平位を基準とする。モリスエやバーレは浮きの表現とともに、腕支持になる前に身体や膝をよく伸ばさなければならない。身体の伸ばしが不十分なものや、膝をまげたまま腕支持になるものは実施減点の対象となる。回転の途中でぶつかるように腕支持になる減点 (0.30、0.50)。かかえ込んだまま腕支持になった場合の減点 (0.30)。モリスエやバーレの高さ不足の減点 (0.10、0.30)。モリスエやバーレでバーを持った瞬間の姿勢不良の減点 (0.10、0.30)。

- 6) モイや後方車輪系の技は、振り下ろす際、体が水平位に達するまで膝をまげてはならない。
 - ・ バーの高さで膝をまげはじめる（減点なし）
 - ・ 振り下ろしてから膝をまげはじめる（0.10）
 - ・ 倒立位から膝をまげはじめる（0.30）
- 7) ベーレ、モイ、車輪系の技で足先がマットに触れた減点（0.10）、明らかにぶつかった減点（0.50）。
- 8) ベーレや宙返り系の技の終末局面において、バーを正確に握らない、または遅い握り、上腕部のみで支持しながら前振りになるような捌きに対する減点（0.30）。
- 9) バブサーで水平位からの逸脱、支持が見えすぎる場合の減点（0.10、0.30）、身体が水平から 45° を超えて逸脱するか、肩角度が 90° を超えてバーを握った場合の減点（0.50、不認定）。
- 10) 棒下宙返り倒立系の技は伸腕での実施が前提である。肘がわずかにゆるむものは実施減点となる。肘がまがった場合の減点（0.10、0.30）。肘が深くまがった場合の減点（0.50）。
- 11) シャルロやピアスキーで縦向き単棒支持で正対を示さない場合、縦向きの角度逸脱減点もありうる（0.10、0.30）。握り手を前後にずらしたことによるわずかなゆがみは減点の対象とはならない。身体の向きの逸脱は減点の対象となる。過度の逸脱は難度不認定となる。
- 12) 単棒横向き前方浮腰上がり脚前拳支持経過横向き倒立で、足先がバーに触れた、ぶつけた場合の減点（0.10、0.50）。
- 13) ティップペルトで脚がバーにのった場合、器械上への落下となり減点（1.00）。
- 14) ティップペルトは振動技であるため、継続的な動きで実施する必要がある。倒立へ上げる際、脚が下がったり、明らかな力の使用をしたりせず上昇しなければならない。脚の下がり、停滞、または明らかな力の使用は、減点または難度不認定となる。
- 15) 終末技で着地を止めても着地前に身体を伸ばす局面がみられない減点（0.10）。
着地で膝をついた実施（1.00）、膝がマットに触れた場合（0.30）。
- 16) 前振り上がりは、背中がバーに対して水平になる必要がある。 45° までの逸脱は0.10、 45° を超える逸脱は0.30の減点となる。
- 17) 前振り上がりから直接、脚前拳支持につなげる捌きは、前振り上がりの大きさ不足による減点（0.10、0.30）となる。

3. ニュートラルディダクション（ND）

- ・ ウォーミングアップ時間は、個人に対し 50 秒、チームに対し 50 秒×人数分が与えられる。それらにはバーの調整やマグネシウムをぬる時間も含まれる（終了のコールと同時に始めた運動は認められる）。時間オーバーした場合は決定点から 0.30 の減点（ND）となる。
- 計時審判のコールはアップ開始の「スタート」、個人の場合はカウントアップ「40 秒」、「50 秒（終了）」とする。チームの場合はカウントダウン「30 秒前」、「10 秒前」、「終了」とする。運営上可能であればタイマーを設置する。

□ 鉄 棒

1. 難度認定の確認事項

1) 組合せ加点

- ・組合せ加点は下記のような組み合わせに与えられる（すべて逆も可）。

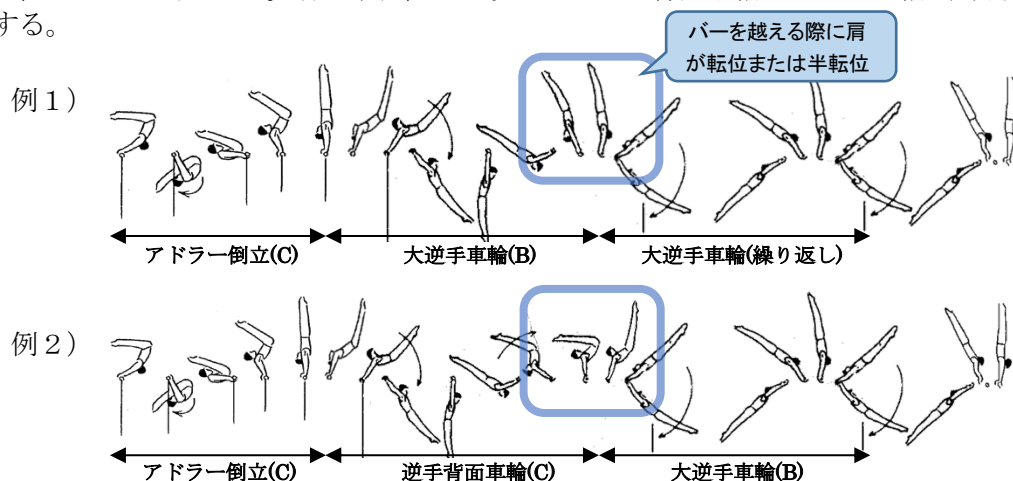
手放し技		手放し技		加点
C 難度	+	C 難度以上	=	0.10
D 難度以上	+	D 難度以上	=	0.20

アドラー系の技		手放し技		加点
D 難度以上	+	D 難度	=	0.10
D 難度以上	+	E 難度以上	=	0.20

- ・大欠点のある場合は組合せ加点が認められない。
- ・どちらの技もカウントされる10技の中に含まれていなければならない。

2) 特別な繰り返し

- ・アドラー系の技は、演技中に最大2回まで実施することができる。この場合難度の高い順に認められる。
 - ・ひねりを伴う技は握り方の違う同じ技（例：リバルコと後方とび車輪3/2ひねり片大逆手）を行うことはできない。行った場合は、難度の高い順に認められる。
 - ・トカチェフ系（ピアッティ系を含む）およびコバチ系の技は演技中に最大2回まで実施することができる。ただし、それらの手放し技は他の手放し技と直接連続した場合に限り3回目の実施が認められる。
- 3) 手放し技で落下した際、落下前に明確な懸垂局面が示された場合は難度が認定される。片手が離れた、または片手で持った場合は、最終的に両手で持った時点か、他の技が明確に開始された場合に難度が与えられる。
- 4) とびひねり技でとびが見られない握り換えは難度を分割する。
- 5) 逆手背面車輪(C難度)が認定されるためには、下降局面からバーを越えるまでの全経過で肩が未転位である必要がある。肩を半転位した状態での逆手背面車輪は大逆手車輪 (B 難度) と判定する。



- 6) 大逆手車輪 (B 難度) は、以下のようにバーを越えることで難度を認定することができる。
- 例) アドラー (C) ～大逆手振り上がり (大逆手車輪 : B) ～大逆手エンドー (C)
 リバルコ (D) ～大逆手振り上がり (大逆手車輪 : B) ～大逆手エンドー (C)
- 7) 以下のように、バーを越える前に持ち換えた場合は、大逆手車輪 (B 難度) は認定されない。
- 例) アドラー (C) ～大逆手振り上がり逆手持ち換え (難度なし)
 リバルコ (D) ～大逆手振り上がり逆手持ち換え (難度なし)

- 8) 大逆手エンドー(Ⅲ-99)の難度の認定を得るためには、大逆手倒立で開始し、大逆手でバーの真上を越える必要がある。大逆手でバーの真上を越えない場合、難度は認められない。



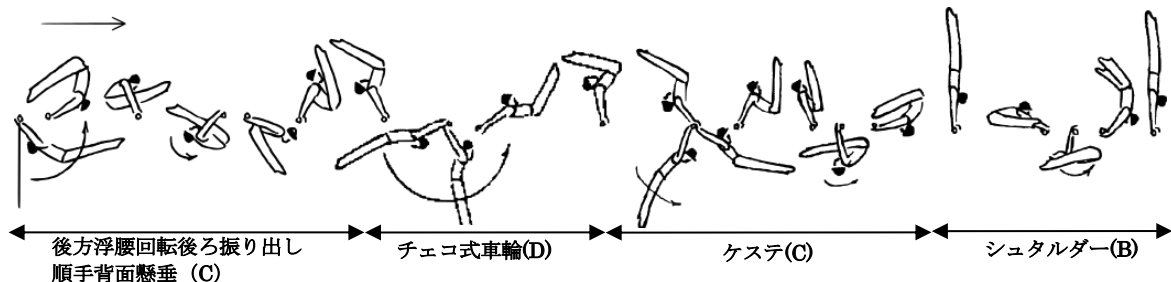
- 9) 伸身で行う技は全経過伸身姿勢を示さなければならず、経過中に屈身やかかえ込み姿勢がみられた場合、低い難度で判定する。後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下りにおいて、後半に膝をまげるような実施は、かかえ込みと判定し D 難度とする。
- 10) 伸身トカチェフは、バーを持つまで全経過伸身姿勢を示さなければならない。伸身と認定するためには、足先がバーの真上を通過する際に体が一直線でなければならない。バーを越える前に 45° を超えて腰をまげた場合、屈身トカチェフ(C)として判定される。バーを越えた後に腰をまげた場合、D 難度としての価値は認められ E 審判により相応の減点がなされる。

【FIG NewsLetter 2】

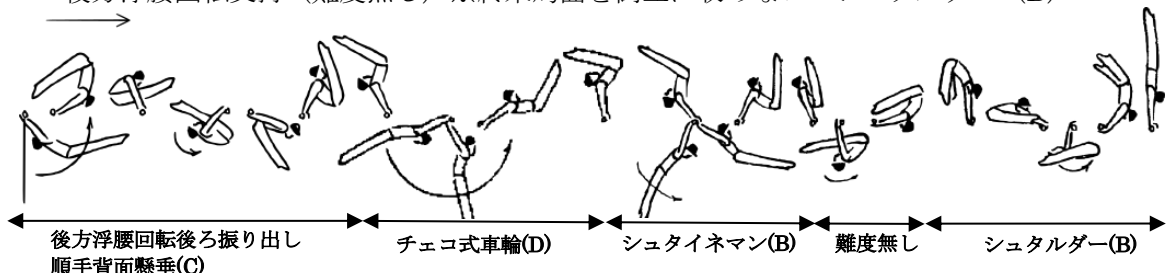


- 11) ヤマワキは、上昇の仕方、腰のまがり具合、ひねりの度合いを総合的に判断する。明らかな腰のまがりが見られた場合や、表現が著しく乏しい実施はボローニン (B 難度) と判定する。
- 12) 前方浮腰回転開脚抜き懸垂 (支持) (Ⅲ-103) は車輪からでも、懸垂前振りからでも良い。
- 13) ツォ・リミンでひねりが不十分な場合 (最初のひねりで 90° を超える逸脱)、D 審判によって難度は認められず、E 審判によって 0.50 の減点を受けることになる。その際は、前方片手車輪 (B 難度) としても認められない。
- 14) ひねって片手大逆手になる技は、片大逆手で実施したのと同様・難度である。
- 15) クーストは明確なとびと滑らかなひねりで実施する。明確なとびがない場合不認定となる。
- 16) 順手背面懸垂前振り上がり後方浮腰回転倒立 (ケステ) の終末局面について、想定される複数の捌きの判定について詳細を以下の通りとする。

- ① 後方浮腰回転後ろ振り出し順手背面懸垂 (C) ~ チェコ式車輪 (D) ~ ケステ (C)
※終末局面が倒立~シュタルダー (B)

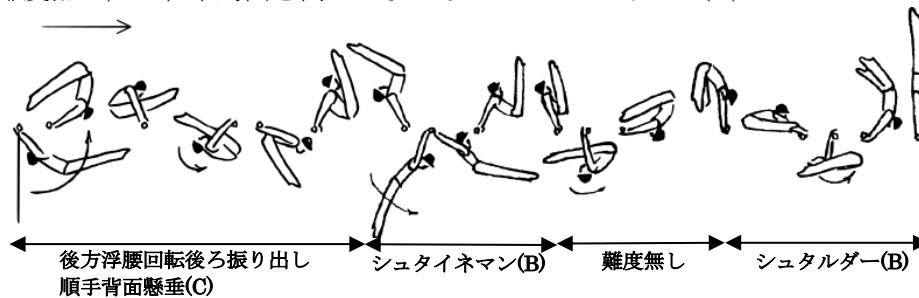


- ② 後方浮腰回転後ろ振り出し順手背面懸垂 (C) ~ チェコ式車輪 (D) ~ シュタイネマン (B) ~ 後方浮腰回転支持 (難度無し) ※終末局面を倒立に収めない~シュタルダー (B)



※この連続性の捌きに対する減点はないが、姿勢および技術欠点には通常通りに対応する。

- ③ 後方浮腰回転後ろ振り出し順手背面懸垂 (C) ～シュタイネマン (B) ～後方浮腰回転支持 (難度無し) ※終末局面を倒立に収めない～シュタルダー (B)



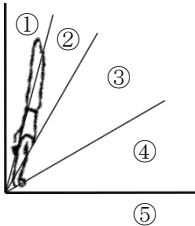
※この連続性の捌きに対する減点はないが、姿勢および技術欠点には通常通りに対応する。

2. 演技実施上の確認事項

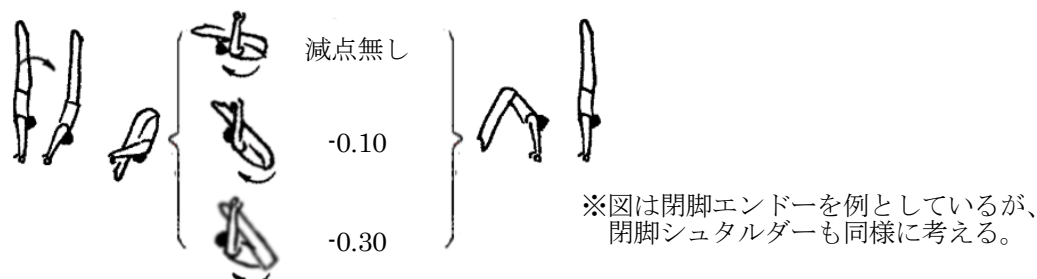
- 1) 余分な握り換えは、「余分または中間的な支持」と見なされ実施減点となる (0.10)。  **【FIG NewsLetter 2】**
 例 1 : ツォ・リミンやアドラー 1 回ひねり倒立において、片逆手倒立で完了し、ただちに逆手に握り換えた場合、0.10 の減点となる。
 例 2 : 順手で実施されるエンドー、け上がり系、後ろ振り上がり技から、2 回の握り換えで逆手になった場合、2 回目の握り換えに対して 0.10 の減点となる。
 注) 片逆手の技 (前方車輪、エンドー、後ろ振り上がり、け上がりなど) から 1 回の握り換えで逆手になった場合、減点とはならない。
- 2) 車輪での単純な横への手のずらし (片手も含め) は実施減点となる (0.10)。一連の動作であっても、片手ずつずらした場合には 0.10+0.10 の減点となる。
- 3) 演技開始の振り出しは、最大 3 回のスイングが認められる。3 回を超えたスイングは 0.30 の減点を伴う。前や後ろへのいかなる動きもスイングとして数える。さらに、とびついでのスイングや、コーチが選手を押して振動を与える場合もスイングとして数える。  **【FIG NewsLetter 2】**
- 4) ひねりを伴う技はひねり終わってバーを持った時の角度で判断をする。
- 5) 手放し技では、バーを握る前に身体をよく伸ばさなければならない。身体の伸ばしが不十分な捌きや、膝のまがった実施、身体が歪んだまま懸垂になるものは実施減点となる。
- 6) ヤマワキは、伸身で身体が垂直にバーを越えなければならない。バーを越える際の過度の腰のまがりや不完全な実施は減点の対象となる。
- 7) 宙返りを伴いバーを越える手放し技はバーを越えて車輪技に続けなければならない。続かなかった場合は 0.30 の減点となる。他の手放し技に続けた場合は対象外である。
- 8) 倒立へ上げる途中での脚の下がり、減点の対象となる (9-3条2.d).

15° まで…………	0.10
16° ～30…………	0.30
31° ～45° ……	0.50
45° を超える…	0.50 (不認定)
- 9) 無価値な振れ戻り (0.30)
 - ・ け上がり倒立や後ろ振り上がり倒立ー後方車輪、後方浮支持回転倒立、シュタルダー等
 - ・ 懸垂後ろ振りーとび順手持ち換え前振り

- 10) 全ての倒立になる、または経過する技の角度逸脱は、下記に従って減点する。

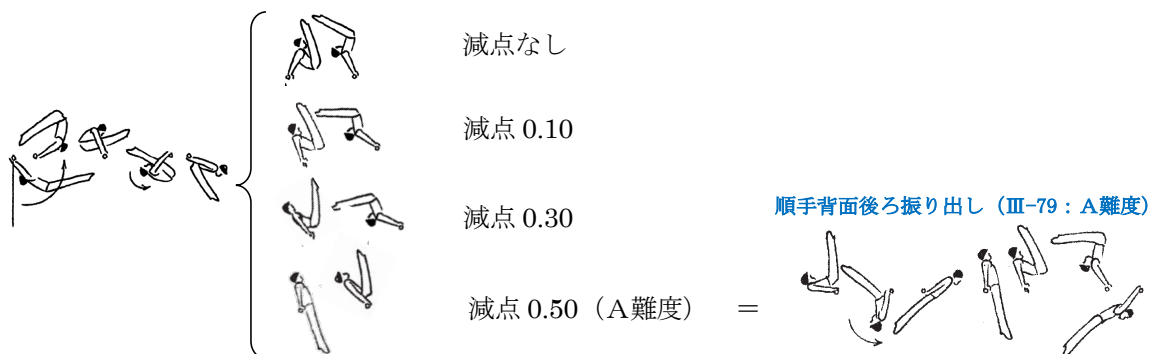
	①	0° ~15°	減点なし
	②	16° ~30°	減点0.10
	③	31° ~60°	減点0.30
	④	61° ~90°	減点0.50
	⑤	90° を超える	減点0.50 難度不認定

- 11) エンドー、シュタルダー、ワイラー、アドラー系の技が認定されるには、意図した方向にバーを越えて続けなければならない。続けられなかった場合は減点の対象となる (0.30)。
- 12) 閉脚エンドーおよび閉脚シュタルダーにおいて、バーの下を通過する際に、両腕の間に膝程度まで脚が深く入っていないといけない。肩角度が広く、下腿部若しくは足首程度までしか脚が入っていない場合は減点の対象となる (0.10、0.30) 。【FIG/MTC 情報】



- 13) エンドー、シュタルダー、ワイラーの開始局面で、倒立位からの逸脱は減点対象となる (0.30)。一方、アドラー系の技については開始局面で倒立位から行う必要はない。
- 14) 順手背面懸垂前振り上がり後方浮腰回転倒立 (ケステ) の最終局面で足を抜いたのち、即座にシュタルダーに持ち込む場合、倒立に収めなくても減点にはならない。ただし、技の捌き次第では技術欠点、姿勢欠点は相応に減点される。
- 15) 後方浮腰回転後ろ振り出し順手背面懸垂 (Ⅲ-81) は、後半の後ろ振り出しの局面でバーを越える時点では脚上挙支持の体勢であり腕と上半身の角度が 45 度を越えて開いていることを求める。それに満たない場合、減点の対象とする。(わずかに不足 : 0.10、不足 : 0.30) (国内対応)。バーを越えてから振り出された場合は 0.50 の減点となる。バーに身体が触れてからの実施は A 難度で認定とする。

後方浮腰回転後ろ振り出し順手背面懸垂 (Ⅲ-81 : C 難度)



- 16) 演技中のプロテクターの破損について、プロテクターがはっきりと切れ、落下や中断につながった場合、選手は減点なしで演技全体をやり直すことができる。その際は審判長の許可を得て演技はローテーションの最後に行く。元々最終演技者であった場合は審判長の裁量で許された時間の後に演技を行う。選手が演技やり直しの許可を得るためには、ただちに破損したプロテクターを D1 審判に見せなければならない。

6. 2022 年Dスコアランキング

2022 年に開催された国際競技会および国内主要競技会における結果から、Dスコアのみを抽出し、それを高いものから順に並べた表を世界ランキングおよび日本ランキングとして掲載する。なお、該当選手の最も高い D スコアが複数の競技会で実施された場合は、一競技会のみを取り上げた。

世界の状況を把握し、現場での指標のひとつとして参考にして頂きたい。

◇ 実施された競技会と省略記載

国際競技会名	省略記載
世界選手権（予選）	WGC 予
世界選手権（種目別決勝）	WGC 種
世界選手権（個人総合決勝）	WGC 個
世界選手権（団体決勝）	WGC 団
チャレンジカップ・Paris	Paris
チャレンジカップ・Szombathely	SBH
ヨーロッパ選手権	E・C
アジア選手権大会	A・C

国内競技会名	省略記載
全日本個人（トライアル含）	AJ 個
NHK杯	N 杯
全日本種目別	AJ 種
全日本インカレ	インカレ
全日本シニア	シニア
全日本団体	AJ 団

【個人総合】

■世界ランキング

Rk.	選手	国名	FX D スコア	PH D スコア	SR D スコア	VT D スコア	PB D スコア	HB D スコア	AA D スコア	競技会
1	ZHANG Boheng	CHN	6.1	6.0	5.7	5.6	6.4	6.2	36.0	WGC 予
2	橋本 大輝	日本	6.0	5.6	5.8	5.6	6.1	6.7	35.8	WGC 予
3	谷川 航	日本	5.7	5.9	6.0	6.0	6.3	5.7	35.6	WGC 個
4	SHI CONG	CHN	5.8	5.6	6.0	5.6	6.3	6.2	35.5	A・C
5	SOUZA Caio	BRA	5.6	5.4	6.0	5.6	6.0	6.3	34.9	WGC 団
6	YULO Carlos	PHI	6.4	5.1	6.0	6.0	6.3	5.0	34.8	WGC 予
6	YANG JIAXING	CHN	6.0	5.9	5.9	5.6	5.8	5.6	34.8	A・C
6	ONDER Ahmet	TUR	5.8	5.5	5.8	5.2	6.6	5.9	34.8	E・C
6	FRASER Joe	GBR	5.7	5.7	5.6	5.2	6.5	6.1	34.8	WGC 予
6	MALONE Brody	USA	5.6	5.8	5.9	5.2	6.0	6.3	34.8	WGC 団

■日本ランキング

Rk.	選手	所属	FX D スコア	PH D スコア	SR D スコア	VT D スコア	PB D スコア	HB D スコア	AA D スコア	競技会
1	橋本 大輝	順天堂大学	6.0	6.3	5.9	5.6	6.1	6.7	36.6	インカレ
2	萱 和磨	セントラル	5.7	6.5	6.0	5.6	6.3	6.3	36.4	シニア
3	杉野 正堯	徳洲会	5.9	6.9	5.3	5.6	5.9	6.6	36.2	シニア
4	三輪 哲平	順天堂大学	5.8	5.7	5.8	6.0	6.4	5.7	35.4	AJ 団
4	谷川 航	セントラル	5.7	5.9	5.9	6.0	6.3	5.6	35.4	N杯

【ゆ か】

■世界ランキング

Rk.	選手	国名	Dスコア	競技会
1	JARMAN Jake	GBR	6.7	WGC 予
2	Dolgopyat Artem	ISR	6.5	SBH
3	YULO Carlos	PHI	6.4	WGC 予
3	WHITTENBURG Donnell	USA	6.4	Paris
5	KARIMI Milad	KAZ	6.3	WGC 予
5	BENOVIC Aurel	CRO	6.3	Paris

■日本ランキング

Rk.	選手	所属	Dスコア	競技会
1	南 一輝	エムズスポーツ	6.8	シニア
2	土井 陵輔	日本体育大学	6.4	A J 種
3	五島 誉博	相好	6.3	A J 個
3	築山 翔馬	大阪体育大学	6.3	A J 団
5	大谷 直希	北翔大学	6.2	A J 種
5	平松 航河	筑波大学	6.2	インカレ
5	松見 一希	徳洲会	6.2	シニア

【あん馬】

■世界ランキング

Rk.	選手	国名	Dスコア	競技会
1	KURBANOV Nariman	KAZ	6.7	Paris
2	Dolgopyat Artem	ISR	6.5	SBH
2	津村 涼太	日本	6.5	Paris
2	YIN DEHANG	CHN	6.5	A・C
2	LEE CHIH-KAI	TPE	6.5	A・C
6	SUN Wei	CHN	6.4	WGC 予
6	de MUNCK Loran	NED	6.4	WGC 予

■日本ランキング

Rk.	選手	所属	Dスコア	競技会
1	杉野 正堯	徳洲会	6.9	シニア
2	谷川 翔	セントラル	6.7	A J 個
2	永吉 雄	相好	6.7	A J 個
2	津村 涼太	鹿屋体育大学	6.7	A J 団
5	萱 和磨	セントラル	6.6	A J 種
6	石澤 大翔	徳洲会/星槎大学	6.5	N杯
6	長崎 柊人	筑波大学	6.5	インカレ
6	相馬 広夢	アスリートクラブ	6.5	シニア
6	浅山 侑大	仙台大学	6.5	A J 団

【つり輪】

■世界ランキング

Rk.	選手	国名	Dスコア	競技会
1	YOU Hao	CHN	6.7	WGC 種
2	神本 雄也	日本	6.4	WGC 予
3	ASIL Adem	TUR	6.3	E・C
3	LAN XINGYU	CHN	6.3	A・C
3	ZOU Jingyuan	CHN	6.3	WGC 種
3	SIMONOV Nikita	AZE	6.3	WGC 予
3	Hoeck Vinzenz	AUT	6.3	SBH

■日本ランキング

Rk.	選手	所属	Dスコア	競技会
1	高橋 一矢	徳洲会	6.4	A J 個
1	神本 雄也	コナミ	6.4	シニア
3	山崎 響太	相好	6.3	シニア
4	上田 悠太	筑波大学	6.2	A J 個
4	春木 三憲	徳洲会	6.2	シニア
4	金田 希一	鹿屋体育大学	6.2	A J 団

【跳 馬】

■世界ランキング（跳越技 6.0 実施選手）

Rk.	選手	国名	跳越技	競技会
1	ASIL Adem	TUR	リ・セグ ⁺ アンII	E・C
1	谷川 航	日本	リ・セグ ⁺ アンII	WGC 個
1	YULO Carlos	PHI	リ・セグ ⁺ アンII	WGC 予
1	HONG Asher	USA	リ・セグ ⁺ アン	WGC 予
1	JARMAN Jake	GBR	ヨネクラ	WGC 団
1	TULLOCH Courtney	GBR	リ・セグ ⁺ アン	WGC 予
1	安里 圭亮	日本	リ・セグ ⁺ アン	Paris

■日本ランキング（跳越技 6.0 実施選手）

Rk.	選手	所属	跳越技	競技会
1	米倉 英信	徳洲会	ヨネクラ	A J 個
1	谷川 航	セントラル	リ・セグ ⁺ アンII	N杯
1	安里 圭亮	相好	リ・セグ ⁺ アン	A J 種
1	遠藤 幹斗	静岡産業大学クラブ	ヤン・ハワソ	A J 種
1	三輪 哲平	順天堂大学	ヨネクラ	A J 団
1	岩澤 将英	仙台大学	ヨネクラ	A J 団

【平行棒】

■世界ランキング

Rk.	選手	国名	Dスコア	競技会
1	ZOU Jingyuan	CHN	6.9	WGC 種
2	CALVO MORENO	COL	6.7	WGC 予
3	ONDER Ahmet	TUR	6.6	E・C
3	KOVTUN Illia	UKR	6.6	WGC 個
3	ARICAN Ferhat	TUR	6.6	WGC 予
3	DAUSER Lukas	GER	6.6	WGC 個

■日本ランキング

Rk.	選手	所属	Dスコア	競技会
1	神本 雄也	コナミ	6.5	A J 個
2	谷川 航	セントラル	6.4	A J 種
2	杉本海誉斗	相好	6.4	A J 団
2	三輪 哲平	順天堂大学	6.4	A J 団
5	田浦 誠也	徳洲会	6.3	A J 個
5	長谷川 毅	鹿屋体育大学	6.3	A J 個
5	川上 翔平	徳洲会/星槎大学	6.3	A J 種
5	田中 佑典	田中体操クラブ	6.3	A J 種
5	萱 和磨	セントラル	6.3	シニア
5	谷川 翔	セントラル	6.3	シニア
5	岩槻 万里	相好	6.3	シニア

【鉄 棒】

■世界ランキング

Rk.	選手	国名	Dスコア	競技会
1	橋本 大輝	日本	6.7	WGC 予
2	SUN Wei	CHN	6.4	WGC 予
2	土井 陵輔	日本	6.4	WGC 団
4	SOUZA Caio	BRA	6.3	WGC 団
4	MALONE Brody	USA	6.3	WGC 団
4	PLATA Joel	ESP	6.3	WGC 予

■日本ランキング

Rk.	選手	所属	Dスコア	競技会
1	橋本 大輝	順天堂大学	6.7	A J 個
2	杉野 正堯	徳洲会/鹿体大大学院	6.6	A J 種
2	川上 翔平	徳洲会/星槎大学	6.6	A J 種
4	土井 陵輔	日本体育大学	6.5	A J 種
5	北園 丈琉	徳洲会/星槎大学	6.3	A J 個
5	萱 和磨	セントラル	6.3	シニア

7. タイ・ブレイクについて

下記は FIG 競技規則 Technical Regulations 2023 を抜粋した内容である。競技会における同点の扱いについては競技会ごとの申し合わせ事項であり、参考としてこの一部または全部を準用・適用するのも主催団体の裁量であるので、必ず競技会前に確認しておく事が望ましい。

第 2 章 体操競技に関する特別規定

第 7 条 タイ・ブレイク ルール

第 7 条 7.1 予選

すべての決勝への資格取得：

どの順位においても同点の場合、以下の基準で予選順位を決定させる：

第 7 条 7.1.1 団体決勝のための予選

団体決勝の予選のどの順位においても同点の場合、予選順位は以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い 5 種目の合計、女子はチーム得点の高い 3 種目の合計の得点が高いチームが上位となる。
さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。
同点のチーム間で抽選を行い、団体決勝のスタート順を決定する。

第 7 条 7.1.2 個人総合決勝のための予選

個人総合決勝の予選のどの順位においても同点の場合、予選順位は以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は得点の高い 5 種目の合計、女子は得点の高い 3 種目の合計の得点が高い選手が上位となる。
2. さらに同点の場合は、すべての種目の E スコアの合計が高い選手が上位となる。
3. さらに同点の場合は、すべての種目の D スコアの合計が高い選手が上位となる。
さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。
同点の選手間で抽選を行い、個人総合決勝のスタート順を決定する。

第 7 条 7.1.3 種目別決勝のための予選

跳馬を除いた種目のどの順位においても同点の場合、予選順位は以下の基準で決定される：

1. E スコアが高い選手が上位となる。
2. さらに同点の場合 D スコアが高い選手が上位となる。
それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

跳馬の予選でどの順位においても同点の場合、予選順位は以下の基準で決定される：

1. 2 回の実施の得点のうち、最も高い得点をもつ選手が上位となる。
2. さらに同点の場合 2 回の実施のうち、どちらか一方の E スコアが高い選手が上位となる。
3. さらに 2 回の実施のうち、どちらか一方の D スコアが高い選手が上位となる。
それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

第 7 条 7.2 決勝

第 7 条 7.2.1 団体決勝

団体決勝のどの順位においても同点の場合、最終順位は以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い 5 種目の合計、女子はチーム得点の高い 3 種目の合計の得点が高いチームが上位となる。
さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第 7 条 7.2.2 個人総合決勝

個人総合決勝のどの順位においても同点の場合、最終順位は以下の基準で決定される：

1. 最終得点のうち、男子は得点の高い 5 種目の合計、女子は得点の高い 3 種目の合計の得点が高い選手が上位となる。
2. さらに同点の場合は、すべての種目の E スコアの合計が高い選手が上位となる。
3. さらに同点の場合は、すべての種目の D スコアの合計が高い選手が上位となる。
それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第 7 条 7.2.3 種目別決勝

跳馬を除いた種目別決勝でどの順位においても同点の場合、最終順位は以下の基準で決定される：

1. E スコアが高い選手が上位となる。
2. さらに同点の場合 D スコアが高い選手が上位となる。
それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬 種目別決勝

跳馬の決勝でどの順位においても同点の場合、最終順位は以下の基準で決定される：

1. 2 回の実施の得点のうち、最も高い得点をもつ選手が上位となる。
2. さらに同点の場合 2 回の実施のうち、どちらか一方の E スコアが高い選手が上位となる。
3. さらに同点の場合 2 回の実施のうち、どちらか一方の D スコアが高い選手が上位となる。
それでも同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

8. 2023 年度国内内規

1. 次の項目は以下に示す競技会以外の大会で適用する。

- ・第 77 回全日本体操競技選手権大会（個人総合選手権、種目別選手権、団体選手権）
- ・第 62 回 NHK 杯体操
- ・2023 全日本ジュニア体操競技選手権大会（1 部）
- ・第 77 回全日本学生体操競技選手権大会
- ・第 56 回全日本シニア体操競技選手権大会（1 部・シニアの部）

① 終末技グループの要求難度について

- ・A 難度の終末技 …… +0.10
- ・B 難度の終末技 …… +0.20

② 下記の宙返り下りは A 難度とする

- ・つり輪、平行棒、鉄棒の前方・後方のかかえ込み宙返り下り

2. ケガや出血等での対処

競技中に落下等の原因によりケガや出血等が見られた場合、状況により審判長、医師らの判断により演技の中止を決定する場合がある。

3. オーダーミスの減点は、発覚した最初の選手の決定点から ND（0.30：国内対応）とする。

4. 服装に関する国内対応

団体総合予選及び決勝においてチームの服装およびチームを示すワッペンと同じデザイン、同色とする。チームを示すワッペンはウエストラインより上とし、身体前面の同一部位に統一し装着することとする。

これらの違反が生じた場合、発覚した最初の種目において、抵触した選手より ND（0.30：国内対応）とする。

※ 以下はこの規則に抵触しない。

- ・メーカーのロゴの位置、デザインの違い等
- ・チームを示すワッペン以外に、個々の選手に対するスポンサー等のロゴの装着すること（参加する競技会主催団体の規則を優先する）。

5. ジュニアルール（U-12、U-15）

1）次の項目を追加する

追加箇所	2022 年版全国ブロック選抜 U-12 適用規則 第 4 条 1. (5) 2022 年版中学校男子適用規則（U-15） 第 4 条 1. (5) 「短い演技（技数不足）に対する ND について」
追加内容	※終末技において、不認定となった場合でも一つの技としてカウントする。 ただし、グループ点は与えられない。

2）一般規則におけるつり輪のグループⅡ・Ⅲの連続を制限する規則は適用しない。

6. 小学生規定演技

- ・ゆかの演技スタートを決められた位置から開始しない場合、ND 0.30 の減点とする。

9. マナー・モラルについて

採点規則に記載されていない競技会における演技中や演技の前後、競技場内での行動や振る舞いについて、以下の内容を守っていただきますようお願い申し上げます。

① 着地の際のガッツポーズ

演技の終了を示すポーズと礼をするまで演技の一部です。着地直後、演技の終了を示すポーズを示す前にガッツポーズをとることは控えてください。

② 演技直前の事前調整

種目移動前の事前の準備や演技後での器械の調整は3名までと致します。また、演技直前の器具やマットの準備を急ぐあまり、前の選手が着地のポーズや審判への挨拶を行なっている最中に次の選手やコーチがマット上に上がることをないようにお願いします。

また、跳馬や平行棒で跳躍板の移動を行う際に、急ぐあまり跳躍板に手を添えずに跳躍板を倒すような乱暴な扱いは避けてください。

③ マグネシウムや霧吹き、調整器具（ドライバー等）の使用方法

準備の際、マグネシウムをばら撒くように使いマットを白く汚したり、霧吹きや雑巾を投げたりするなど乱雑に扱うシーンが見受けられます。また、手に大量にマグネシウムを付けた後、叩いたり、マットやカーペットで擦り落としたりする光景も見られます。器械器具や消耗品を問わず、道具の取り扱いには注意を払うようにお願いします。

平行棒では、霧吹きや雑巾をマット上に置いたまま、演技をすることは避けて下さい。

鉄棒において、ワイヤー調節のためのドライバー等がゆかの上に乱雑に置かれている場合があります。演技前に片付けるか、所定の場所に置くようにして下さい。

④ ローテーション時の移動、整列

種目移動は、出来るだけ速やかにお願いします。整列は全種目とも D 審判席の前をお願いします。また、整列直前での器械やプロテクターの調整は控え、他種目で整列している選手を待たせないようにして下さい。

⑤ 採点間や待機時（ウォームアップ時以外）の選手、コーチの行為について

特別に許可された大会を除き、マットや跳馬の助走路での柔軟や倒立等の練習にあたる行為は控えてください。

演技中の選手を見ながら、コーチが選手席以外に立つことはご注意ください。特にポディウムでない器具設置の場合、審判や観客の視線をさえぎったりしていないか、過度に目立つ場所に立っていないかなど、自身の種目以外からも見られていることにもご配慮ください。

⑥ 頭髪や服装、タトゥー

国際大会でタトゥーを入れている他国の選手が見受けられます。文化・風習の違いはありますが、日本においては禁止と致します。また、多くの方が不快に感じる奇抜な頭髪や服の着こなしなどは避けてください。体操競技は美を競うスポーツです。アピールは美しい演技で行って下さい。

⑦ 携帯機器の使用

携帯機器をアリーナ内で使用することは禁止されています。競技中は使用を避けて下さい。競技会の様子や成績などについて、SNS 等による情報発信は不特定多数が見る場への投稿であることを十分に理解し、「著作権」や「肖像権」も慮り責任をもって対応をして下さい。取り扱いには十分ご配慮願います。近年の簡易な通信伝達手段の普及により、様々な情報が瞬刻に伝播されています。大変便利な反面、真偽が判らない情報も制限なく発信されており、選手に

関することや発信元が不明なルールに関することなども見受けられます。そのような情報には惑わされることないようにするとともに発信源にならないようご注意ください。

- ⑧ 跳馬の助走路にてスタート位置等で目印を付ける場合、5 センチ以内までとする（左右の端から端までマグネシウムを塗ることのないようにすること）。

※ その他、選手・コーチ・審判員は、競技会場内外における自身の行動にもご注意いただき、マナーアップへのご協力をお願い致します。

10. おわりに

審判委員会
体操競技男子審判本部
本部長 高橋 孝徳

2022 年は依然として COVID-19 が終息せず、またロシア・ウクライナ問題など平穏でない情勢の中、世界選手権がイギリス・リバプールにて予定通り 10 月に開催されました。日本男子はパリオリンピックの団体出場権を獲得し、個人総合では橋本大輝選手が金メダル、谷川航選手が銅メダルを獲得、2014 年南寧大会以来のダブル表彰台となりました。また、全種目で決勝に進出したのは 2013 年アントワープ大会以来であり複数のメダル獲得を果たしました。一方で、団体決勝では中国の後塵を拝し 2 位に甘んじたことは、その結果を真摯に受け止めなければなりません。そのような中で明るい兆しも見られました。長年、日本は中国に D スコアの合計得点で差をつけられていましたが、今回互いに失敗がありはしたものの予定された演技からスコアを抽出すると、中国を上回ることができました。長年の選手の努力が成果として見え始めました。選手たちはこれからも継続的に D スコアの維持、向上に努めてください。本情報には 2022 年での D スコアランキングを掲載いたしました。世界や日本の上位陣のスコアを把握し、D スコア向上への一助にさせていただきたいと存じます。

オリンピックや世界選手権、大きな国際競技会では予選、団体決勝、個人総合決勝、種目別決勝と長期間にわたり幾度と演技を実施しなければなりません。メダル獲得にはどの競技でも予定通りの演技を実行する安定性が求められます。

今回、予選や各決勝において中国を始め多くのチーム、選手に失敗が見られました。日本チームも団体決勝・あん馬での複数のミスが順位に大きく影響を及ぼしました。複数日の期間で演技を遂行する体力と演技を安定させる習熟度を高めておく必要があります。とりわけ、終末技の着地の安定性は金メダルを奪還することに大変重要です。全ての選手が着地へのこだわりを高め、一層の精進に励んでいただくようお願いいたします。

ルールの変遷を垣間見ますと、採点規則が改定されていく中で、減点項目は増え、採点基準はより客観的・具体的に示されるようになってきています。審判員は常に最新の規則を把握し、採点に臨むことが大前提のうえ、規則の角度、姿勢、時間などの数値的項目だけを機械的に採点するのではなく、技術の格、捌き方の熟達性、演技の質も見逃さないようにしてください。

今後の技術革新により採点方法がどのように変化していこうとも、採点競技の本質を見失うことなく、素晴らしい演技を評価できるように努めていただきたいと存じます。

2023 年には世界選手権、ユニバーシティゲームズ、アジア競技大会と大きな競技会が開催されます。選手、指導者、審判員、関係者が一丸となり、昨年の雪辱を果たし目標を達成するとともに、来年のパリオリンピックに向け、体操ニッポンを世界に示せるように臨んでいただきたいと存じます。本情報には FIG からの通達、採点規則の追加情報、採点指針がまとめられています。関係者の皆さまは、十分に内容を把握していただきご活用ください。

体操ニッポンが“美しい体操”で成就することを祈念し挨拶といたします。